

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

九州医療科学大学では、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」の建学の理念、および「国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力をもつ人格を陶冶する」という本学の教育目的に基づき、以下の資質・能力を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、各学部学科が定める所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位（学士）を授与します。

- (1) 社会の一員としての自覚と責任をもち、社会の発展に貢献できる。
- (2) 自ら問題を発見し、情報や知識を論理的に分析することを通して、問題を解決できる。
- (3) 目的に応じて他者との意思疎通や他者との協働を円滑かつ適切に行うことができる。
- (4) 専攻する専門分野の内容を理解すると同時に、技能を修得し、それらを実践的能力として活用できる。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

九州医療科学大学では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

- (1) 教養教育として、グローバルな視野と総合的な判断力を身に付け、豊かな人間性を涵養することを目指す大学共通基礎科目を置く。
- (2) 専門的な知識・方法論・技能を体系的に身に付けるとともに、国家資格等の取得に必要な到達目標を達成できるように専門教育科目を置く。
- (3) 多くの専門科目を学修するための基礎となる科目や個々の専攻分野を超えた学部横断的な科目を置く。
- (4) 修得した知識や技能を総合して、新たな課題の解決に応用できる資質・能力を育成するために卒業研究等の科目を置く。

【教育内容・方法】

- (1) 各授業科目について到達目標、授業計画、成績評価基準・評価方法、事前事後の学修を周知する。
- (2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業については明示し、学生の主体的な学びを実践できるようにする。
- (3) 専門科目では医療・福祉等の現場での実践的な課題を題材として取り上げ、それらの課題解決を実践できるようにする。

【点検・評価】

- (1) 学生一人ひとりが本学での自らの学びの成果を自覚できるように学修成果の可視化に取り組む。
- (2) アセスメント・ポリシーに基づいた厳格な成績評価の実施とともに、多様な評価方法を積極的に取り入れる。
- (3) GPA制度を実施し、教育の質保証に向けての点検・評価・改善を行う。

III. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

九州医療科学大学では、建学の理念とディプロマ・ポリシーの実現を目指し、以下の学生を求めます。

- (1) 福祉・医療・薬学の各分野に興味をもち、人の幸せに貢献したいと思う人。
- (2) 学修や活動に意欲をもって取り組み、自分にあった学びを見つけていきたいと思う人。
- (3) 様々なことに関心をもち、多様な人々と協働して学びを深めたいと思う人。
- (4) 目まぐるしい社会の変化に対応できる能力と自ら選択できる力を身に付けたいと思う人。

(5) 他者とのコミュニケーションを大切にし、良好な人間関係を構築しようと思う人。

本学の求める学生像に沿って、目的意識・意欲、および学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力、および主体性・協働性）を総合的かつ多面的に評価し、選抜します。

社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科 3つのポリシー

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ健康福祉学科（以下、「本学科」）では、本学の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たし、福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師・きゆう師、救急救命士としての基礎学力に加え、人々の生活の質の向上に資する専門知識・技能・態度を修得し、社会に有為な人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1) 相手を慮り責任を持って行動できる力

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師・きゆう師、救急救命士として、対象者がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域や多職種との連携・協働を行うことができる。

(2) 社会や他者に能動的に貢献しようとする姿勢

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師・きゆう師、救急救命士として、地域社会の動向をふまえ、福祉、スポーツ・健康運動および医療の現場において必要とされる実践力を身につけ、社会や他者のために自ら積極的に責任ある行動をとることができる。

(3) 専門的知識・技能の活用力

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師・きゆう師、救急救命士として、各領域で必要とされる福祉・健康・運動・医療分野の体系的・相互関連的知識の学修成果を、状況に応じて総合的に活用することができる。

(4) 問題発見・解決力

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師・きゆう師、救急救命士として、福祉、スポーツ・健康運動、医療の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用することで、問題解決のための実践的方法を選択・実行することができる。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

1. 教育内容

(1) 共通基礎科目を通して、社会人として基礎的な知識を身につけ、さまざまな場面において必要とされる思考力、洞察力、判断力を養成します。また、支援対象者や協働する多機関、多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結びつけるための基礎知識を学びます。

(2) 社会福祉専門科目および精神保健福祉専門科目を通して、福祉社会を担う者として、豊かな人間性と倫理観を身につけ、対人援助者としての使命感、責任感の育成を図ります。地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使して、課題の発見から解決方法を導き出していく実践力を身につけます。スペシフィック領域には、スクールソーシャルワークおよび医療ソーシャルワークに関する専門知識、技術について学びを深める科目を設定しています。

(3) スポーツ健康専門科目を通して、身心の健康の維持・増進を図り、すべての人々の生活の質の向上に役立てるために必要なスポーツ・健康運動に関する専門知識を修得し、実践力を養成します。

(4) 鍼灸健康専門科目を通して、東西両医学からみた人体構造・機能の生理的・病理的状态に関する知識、ならびにそれらを基盤とした臨床医学の知識を修得します。実習を通して的確かつ安全な鍼灸治療技術を学び、人々の健康維持増進に貢献できる臨床態度および能力を獲得します。

- (5) 救急救命専門科目を通して、基礎医学や救急医学に関する専門知識を修得します。学内および救急医療施設での実習を通して、救急医療の現状や課題を理解し、一刻を争う救急救命の現場で要求される、適切な判断や迅速な行動等の実践的なスキルを修得します。また、現場で必要となる医師や看護師との連携および患者や家族への対応についても学修します。
- (6) 学科共通専門科目を通して、福祉・医療・介護に関する基礎および専門知識を修得します。また、住環境科目や教育・レクリエーション科目等の社会福祉周辺領域の知識も修得します。さらに、福祉の学びの上に保育士、教職、公務員を目指したキャリアデザインを支援する科目も設定しています。
- (7) 総合科目を通して、社会福祉、スポーツ・健康運動、鍼灸治療、救急救命分野の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決力を獲得します。

2. 教育方法

- (1) 専門領域の実習科目では、主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 専門教育科目においては、教室外学修の課題を課し、適宜形成的評価のためのフィードバックを行います。
- (3) 社会福祉士、精神保健福祉士、はり師・きゆう師、救急救命士、健康運動指導士等の国家資格や認定資格に必要な専門的知識の修得状況を、確認テストの実施によって継続的にモニタリングします。また、学科教員による国家試験・認定試験対策のための時間を開設し、段階を追ったプログラムを実施します。
- (4) 資格免許取得のための実習では、事前教育を行い実習への動機づけを図ります。実習中は定期的に巡回指導を実施し、個別の指導を徹底します。事後教育では、実習の振り返りとともに報告会を開催し、実習の成果を公表します。
- (5) チューター教員との面談を適宜に設け、自己の学修成果と学生生活について「ふりかえり」を行います。

3. 教育評価

- (1) 期末には、各科目の修得度を確認するために、シラバスに記載の評価方法に沿って可否を判定します。
- (2) 資格免許取得に必要な演習・実習の履修にあたっては、所定の科目の単位修得および基準とするGPAを充たしていること求めます。
- (3) 2年生時のGPAおよび2年次までの修得単位数に基準を設け、スポーツ健康福祉学演習、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できていることを求めます。
- (4) 4年間の学修成果の評価は卒業研究（必修）によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総合的評価を行います。

Ⅲ. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方法（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

1. 求める学生像

- (1) 「皆で生きていく」という共生の意識を持っている人
- (2) 人とふれあうことが好きで、相手の立場に立って物事を考え、行動できる人
- (3) 福祉、スポーツ・健康、東洋医学、救急医療に興味を持ち、新たな領域に挑戦する意欲と勇気を持っている人

2. 入学までに修得すべき学力・能力

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。特に、社会福祉、スポーツ・健康運動指導、医療の専門的な知識・技能を学修する基盤となる国語力（考える力、感じる力、想像する力、表す力）を身につけている。
- (2) 社会福祉、スポーツ・健康運動指導、医療に関する諸課題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を文章および口頭で説明することができる。

- (3) 社会福祉、スポーツ・健康運動指導、医療を通して人びとの幸せを創り出すためには、ヒトの身体や疾病についての知識が必要となる。それらを学修する基盤となる人体に関する基礎知識を学んでおくことが望ましい。
- (4) 課外活動・ボランティア活動等の経験があり、他の人達と協働して活動や学習をすることに進んで参加できる。また、グループワークなどで、他の人と協力しながら、課題をやり遂げることができる。

薬学部 薬学科 3つのポリシー

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学科（以下、「本学科」）では、本学の課程を修め、所定の単位を満たし、かつ地域医療や社会の期待に応えて、個々の患者や生活者のニーズに対応できる薬剤師となるために必要な下記の資質について、最低限以上の基礎的な力を身につけた者に学位を授与します。

- (1) 薬剤師としての倫理観
医療人として高い倫理観と豊かな人間性を持ち、患者、家族、生活者の人権や尊厳に配慮して、人の命と健康な生活を守るために行動できる。
- (2) 患者を中心としたチーム医療への参画
常に患者の立場に立ち、コミュニケーション能力をもって患者・患者家族・他の医療職種と相互の立場を尊重した人間関係を構築してチーム医療へ参画できる。
- (3) 最適な薬物療法の実践
医薬品・化学物質等の生体及び環境に対する影響を理解した上で、適切に管理・供給し、個々の患者に適した安全で効果的な薬物療法を実践できる。
- (4) 地域の保健医療への貢献
地域住民の視点に立ち、地域の保健医療のニーズを理解した上で、他職種と連携して人々の健康増進と公衆衛生の向上に貢献できる。
- (5) 医療の進歩への貢献
自己研鑽に努め、問題点や社会的動向を把握し、解決に向けて取り組む姿勢を持つとともに、次世代を担う人材の養成を行い、薬学・医療の進歩と改善に貢献できる。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、以下、DP）に掲げた目標を達成するために、次のような教育課程の編成・実施の方針にて教育を行います。

カリキュラム編成

薬学の専門科目を学ぶにあたり、基礎学力の向上を目指すリメディアル科目を1年生前期に集中して配置し、高度な専門科目にスムーズに移行できるようにカリキュラムを編成しています。専門科目では（DP1）薬剤師としての倫理観の醸成、（DP2）日本語・英語コミュニケーション力の向上、キャリア形成に関する理解および能力、グループ作業における役割の把握と判断力および実行力、（DP3）薬学および医療に関する専門科目の基礎知識と応用力、（DP4）地域の衛生環境の保持および個別化医療への対応力、（DP5）課題の発見と解決までのプロセスを遂行する基礎的能力、ならびに自主的かつ継続的に学習する能力を養う教育課程を編成しています。

学修内容・方法

薬学の専門領域は物理・化学・生物・数学の様々な知識の集合体であり、基礎的な科学力を身につけておく必要があります。しかしながら、高校までに履修していない科目もあります。そこで1年次には、まず、薬学の基本的な学問体系を理解するための土台を築く目的で、リメディアル科目を履修し、基礎学力の補完と向上を行います。さらに、専門の基礎的な内容に加え、早くから臨床的な知識に触れるため、臨床系科目も配置しています。1年次

後期から4年次は、分析化学、有機・無機化学、生化学等の専門科目を履修することにより、基礎薬学に関連する物理、化学、生物に関する基礎知識を身に付けます。生理・薬理学、臨床検査学等の専門科目を履修することにより、医療薬学に関連する分野を学修します。衛生薬学等の専門科目は、公害や感染症対策等に関わる薬事衛生分野を学修します。薬物治療学等の臨床薬学に関する科目は4年次以降に開始される実務実習において患者・家族の心理・社会的な背景を把握した上で薬物治療を実践するための学修を行います。

その他に、1年次～6年次を通じて、キャリア教育、QOLと人間の尊厳、法学、英語、臨床医学概論等の科目によって社会と薬学とのつながり（薬剤師のキャリアや倫理・使命）に対する意識を涵養します。

4年次後期には、講座・研究室配属が行われ、5年次より薬学研究として特別研究を履修することにより、薬学的課題を発見し、使命感と責任感を持って、研究倫理に則った研究を遂行する資質と基礎的能力を修得します。その準備段階として、総合学習Ⅰ～Ⅲや漢方治療学演習（選択科目）を履修し、教員が示した課題に対し、スモールグループディスカッション（SGD）などのアクティブラーニングにより課題解決能力を醸成します。なお、課題解決のための英語論文を理解できるようになるために、1～4年次において、必修科目や選択科目として配置されている英語系科目を履修します。

学修成果の評価方法

- ・各授業科目の学修成果の判定は、複数の学習評価を利用します。具体的にはそれぞれのシラバスに記載された方法により評価します。一部の科目については修得の過程も合わせて評価します。リメディアル科目および専門科目では、主に筆記試験や課題レポートを点数化して評価します。総合学習などのグループ作業を伴う科目や特別研究では、課題への取り組み状況や、学習および研究成果発表でのプレゼンテーションと質疑応答ならびに口述試験への対応力についてルーブリック表などを用いて点数化し評価します。
- ・ディプロマ・ポリシーに掲げる5つの資質・能力については、定期的に評価を行います。カリキュラムマップに示す各科目には関連するディプロマ・ポリシーの番号が示されており、ディプロマ・ポリシーの番号毎に関連科目の点数やGPAを用いて評価することで、ディプロマ・ポリシーへの到達度を判定します。

Ⅲ. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、高い倫理観と高度な専門的知識・技能をもった薬剤師を養成することを目的としています。また、旺盛な探求心を有し、協調性と広い視野をもって医療現場や地域の問題を解決できる人材の養成を目標としています。このため、次のような学生を求めています。

1. 求める学生像

- (1) 医療人として、医療現場や地域で活躍するという強い意志・意欲を持った学生
- (2) 医療・薬学に強い興味を持ち、学習意欲が旺盛な学生
- (3) 薬学を学ぶために必要な科学的基礎知識と日本語・外国語の基礎学力を備えた学生
- (4) ひとに対する深い思いやりと優れたコミュニケーション能力を持った学生

2. 入学までに修得すべき学力・能力

専門的な知識・技能を学習するための基盤となる以下の学力・能力。特に、医薬品の構造や人体への影響、生命現象のしくみを理解するための基礎となる化学の知識は重要です。

- (1) 「国語」：文章読解力，コミュニケーション力，表現力。
- (2) 「数学」：数学的思考力，表現力、基礎的な計算力。
- (3) 「理科」：自然科学の総合的理解力，論理的思考力。
- (4) 「英語」：読解力，コミュニケーション力，表現力。
- (5) 「その他」：社会や医療に関する情報の収集能力，表現力，礼節力。

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

動物生命薬科学科（以下、「本学科」）では、本学の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たし、動物及び薬の専門職としての基礎的学力と、臨床、研究等の職業的現場に対応した知識・技能・態度を修得することができた人材として、下記の力を身に付けた人に対して学位を授与します。

- (1) 問題発見・解決能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、問題解決学習法（Problem-based Learning：以下PBL）の手法を用いて、問題を発見したうえで解決する能力を身に付けることができる。
- (2) 論理的構築能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、目的・目標、方法及び計画について、策定し説明する能力を修得している。
- (3) 協調性を伴うコミュニケーション能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、他者の立場を尊重しながらコミュニケーションを働きかけ、チームとして協働する能力を修得している。
- (4) 専門的知識・技能に関する実践能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、策定した計画をチームとして実際に行動する能力を修得している。
- (5) グローバル化に対応する能力
動物及び薬の専門職に関する現場において、国の内外からの情報を入手し考察して、国際社会に対応する能力を修得している。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

1. 教育内容

- (1) カリキュラムは、いわゆる学士力を高める基礎科目と本学科の専門を身に付ける専門教育科目から構成される。基礎科目は、さらに、本学の学生及び卒業生として修得すべき大学共通基礎科目と本学科の専門教育科目を理解するための学科基礎科目からなる。専門教育科目は、上級学年や資格取得に必要な専門基礎科目と本学科固有の専門科目からなる。
- (2) 動物を活用したPBL及びPBLの手法を用いた授業により、問題発見・解決能力を修得します。
- (3) 目的・目標、方法及び計画について、策定し説明する能力を身に付ける演習及び実習授業により、論理的構築能力を修得します。
- (4) コミュニケーション・スキルを養いチームとして課題を処理する授業により、協調性を伴うコミュニケーション能力を修得します。
- (5) 実際に計画を策定し、チームとして結果を出す演習及び実習授業により、専門的知識・技能に関する実践能力を修得します。なお、愛玩動物看護師資格については、初年次から4年次まで、実験動物技術者資格については、初年次から3年次に、学芸員資格については、2年次から4年次に当該科目が配置されています。
- (6) 初年次及び2年次に外国語科目等を取得することにより、留学を含めたキャリアを形成し、国の内外からの情報を入手し考察して、国際社会に対応する能力を修得します。

2. 教育方法

- (1) 多くの授業において、SGD (small group discussion)、小テスト、ワークショップ等を導入するアクティブラーニングの授業を実施します。
- (2) 問題解決スキル、グループ・スキル、学習スキル及び評価スキルの4スキルにわたった体系的なPBLの手法により、演習及び実習授業を実施します。
- (3) エンカレッジ・キャリア教育により、自らを励ましながら学習し社会と自己の関係を考察するキャリア・マインドにより、就職、資格取得、留学等を視野に入れた授業を実施します。
- (4) eラーニング、英語村 (English Village) 等による自己学習を通して、学習や生活に関する自己管理を習慣化します。
- (5) 多様なフィールドワークに参加する実習授業やインターンシップにより、社会性を育みながら、動物及び薬の専門職を理解します。
- (6) 筆記及び実技についての模擬試験等により、資格取得に必要な専門知識・技能・態度に関する能力を確認する授業を実施します。

3. 教育評価

- (1) 期末には、各科目の修得度を確認するために、シラバスに記載の評価方法に沿って可否を判定します。
- (2) 実験動物技術者認定試験の受験は2年次末の通年GPAが所定の値であること、並びに専門学科試験の合格を求めます。愛玩動物看護師資格の受験は所定の科目の合格、また学芸員資格は所定の科目の合格を求めます。
- (3) 4年間の学修成果は、必修科目である卒業研究及びGPAによって行います。卒業研究の評価は、卒業研究レポートによって行います。また、4年次修了時におけるGPAの最高点を取得した者には「薬学部奨励賞」を授与します。

III. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

本学科は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

1. 求める学生像

薬に興味をもつとともに、動物愛護や動物の福祉の理念に基づいた強い意志により、動物と接することができる人材

2. 入学までに修得すべき学力・能力

- (1) 「英語」、「化学」、「生物」、「国語」、「地理歴史」、「公民」を幅広く修得している必要があります。特に、「生物」については基本的な知識修得とともに、生命現象を説明できる能力を身に付けてください。
- (2) 動物と薬に関する専門性の高い職業に就く意欲を持ってください。
- (3) グループ活動において、積極的に行動し、他者と協働できる能力を養ってください。
- (4) 標準的な日本語の文章を理解するとともに、自分の考えや主張を文章で表現する能力を身に付けてください。
- (5) 基本的な英語の4技能 (「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」) を身に付けてください。

生命医科学部 生命医科学科 3つのポリシー

I. 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

生命医科学科の臨床検査技師教育プログラム、臨床工学技士教育プログラムでは、本学の課程を修め、それぞれ124単位、124単位の単位修得と必修等の条件を満たすこととします。医療専門職たる臨床検査技師、臨床工学技士、ならびに細胞検査士、ME技術者、さらに生命医科学研究者として活躍できうる実践力、専門的知識と技術、高度

な倫理観、自己実現意欲と能力、リーダーシップ等、下記の力を身に付けた人に対して学位を授与します。

(1) 自律的行動力

医療技術者として高度な倫理観と責任感をもち、臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、または生命医科学研究者の業務および法令を遵守し、医療の発展に貢献ができる。また、目標を明確に掲げ、医療・生命医科学における諸問題に対して主体的・自律的に行動することができる。さらに、最新の医療情報や医療技術に関心をもち、常に高度な専門性と技術を追求することができる。

(2) 問題発見・解決能力

医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、さらには生命医科学研究者の立場から、医療・生命医科学領域における諸課題について、様々な問題を発見できる。また、問題解決に必要な論理的・実践的知識を持ち合えると共に、適切な研究・実践方法を用いて取り組むことができる。臨床検査と臨床工学の専門的知識と技術を総合的に活用し、諸課題を論理的かつ的確に解決できる。

(3) 対象者を支援する汎用的能力

医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、さらに生命医科学研究者として、ジェネリックススキル（汎用的能力）を活用して、対象者（患者様や多職種者）がもつ背景や価値観を多面的に理解し、相手の立場を尊重できる。医療専門職として、他の専門職と連携・協働することにより、信頼感と高いレベルで対象者を支援できる。

(4) 専門的知識・技能の活用力

高度な専門的知識をもとに、医療における臨床検査体制と臨床工学体制を構築し実践できる。医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、さらには生命医科学研究者に必要とされる科学的専門知識と技能・技術を活用できる。

(5) コミュニケーション能力

医療技術者として他職種、患者様ならびにご家族に対して医療技術を提供・遂行する上で必要となるコミュニケーション能力を発揮することができる。さらに、円滑なコミュニケーション能力を用いて、相手の立場を尊重した人間関係を構築できる。社会的に課題を抱えた地域・人々、さらに協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。

(6) チームワークとリーダーシップ

医療技術者の一員として他職種（例えば、医療従事者全般）の考えを理解し、連携・協働ができる。チーム医療の一員として、対象者および他の職種と良好なチームワークを図りながら、職務を遂行できると共に、リーダーシップやフォロワーシップを発揮できる。

(7) 人間力

医療技術者として豊かな人間性を持つと共に、公衆衛生、医療行政、社会の動向を理解し、医療・生命医科学に必要とされる高度な倫理観と人間理解力（人間力）を身につけ、社会や他者のために責任ある行動や努力する態度が取れる。

(8) プレゼンテーション能力

医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、さらに生命医科学研究者として、諸課題の本質を的確にとらえ、情報を収集・分析・考察した上で、それらを効果的にプレゼンテーションでできる。プレゼンテーションがコミュニケーションであることを理解することができる。自分の想いを相手に伝え、相手が理解していることを確認することができる。相手にとって興味・関心のある話題を投げかけることができ、プレゼンテーションのための具体的な準備を行うことができる。

(9) 自己研鑽と自己実現意欲

臨床検査技師または臨床工学技士国家試験、細胞検査士ならびにME技術者認定試験を受験するに値する十分な学力と自己研鑽を持ち合せている。また、生命医科学研究者として必要とされる統合的な学習経験と高度な専門知識、さらには学修成果を状況に応じ総合的に活用できる。医学・医療の現状を認識し、生涯を通じて最新の医療情報や医療技術の進歩に関心を持ち続けると共に、自己実現意欲を常に向上させることができる。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業判定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するため

に、次のような教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施します。また、ディプロマ・ポリシーを基盤とした教育評価（アセスメント）を行います。

本学科では、卒業時に臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験受験資格を得ることができ、さらに在学中に細胞検査士、ME技術者の資格認定試験を受験する教育プログラム（カリキュラム）を配置しています。本学科独自のカリキュラムでそれぞれの専門知識・技術を持ち合せた医療技術者として、さらにチーム医療の一員として質の高い医療を提供するための実践的なスキルを身につけます。4年間の教育の中で各専門職の高度な知識・技術を学ぶだけでなく、それぞれの専門性の違いや連携について、また、それらを効果的に結びつけるスキルや手法を学ぶことで、より幅広い業務に対応できる医療技術者の育成を目指します。

1. 教育内容

(1) 基礎教養教育

入学前教育ならびに初年次教育を通して、医療技術者として必要となる基礎教養科目を中心に学びます。また、臨床検査技師、臨床工学技士のライセンス取得に向けた専門基礎科目の中から、基本的医学知識として、医学概論、解剖学、生理学、生化学、さらに基本的工学知識として医用工学概論、電気工学を学びます。大学共通基礎教育ならびに学科基礎教育においては、総合教育、生命倫理学、情報教育、外国語（英語）を通して、生命医科学の基盤となる基本的思考力、創造的思考力、コミュニケーション能力の育成を図ります。自身の将来の進路についての目標を定める期間の位置づけとして、臨床検査技師と臨床工学技士の心構えや責任感、自己研鑽力を修得します。

(2) 専門基礎教育

医療分野で求められる知識・技能の修得のための専門基礎教育においては、病理学、臨床化学、臨床検査総論、臨床医学総論、電子工学、機械工学、物性工学、情報科学概論、医用機器学概論など医学を共通分野として、臨床検査技師教育プログラムおよび臨床工学技士教育プログラムを効率良く学習します。2年次から3年次は専門知識や思考力、医療技術の基礎を固めます。4年次は自身の将来進路について目標を定め、さらなる専門知識、思考力、医療技術を深化させ、連携医療や最先端医療における実践的な応用力を修得しながら将来の進路目標を確実に実現することを目指します。

臨床検査技師教育プログラムでは、専門基礎科目に加えて癌の早期発見または早期診断を目的とした細胞検査士の資格取得のための臨床細胞学総論、細胞診断学特論、臨床細胞学演習を学びます。臨床工学技士教育プログラムでは、医療機器の原理・構造の基盤となる医工学を学び、医用治療機器ならびに呼吸・循環・代謝に関わる生命維持管理装置の理解や操作、医療機器安全管理技術の実践的方法論を学びます。並行して、ME技術者資格取得のための科目群を効率良く学習していきます。

(3) 専門教育

専門教育においては、特に臨床検査分野と臨床工学分野における検査や治療に必要な知識・技術として、臨床免疫学、薬理学、看護学概論、生体機能代行装置学、臨床微生物学、臨床血液学、臨床生理学、医用機器安全管理学を学習します。さらに、各科目に関係する学内実習を通して、臨床検査や臨床工学の目的・方法・評価などが応用実践できる技能・技術を修得します。

臨床実習では実際の医療現場で臨床検査分野ならびに臨床工学分野に関する臨床実習を行い、「より良い医療人」となる礎を築きます。臨床実習前に1～3年次に修得した基礎知識の整理や手技、臨床応用への実践的概念の確認を行います。また、臨床検査分野では令和4年度から追加される医療行為のタスク・シフト/シェアに対応するため豊富な講義・実習を実践していきます。さらに4年次で開講される医科学研究入門、臨床検査学演習、生体機能代行装置学演習では臨床検査技師ならびに臨床工学技士の国家試験取得を前提とした総合的かつ専門的な学習を実践していきます。実習終了後の臨床実習報告会では、各学生の実習報告をもとにディベート形式のディスカッションを行います。また、4年次の卒業研究はゼミ単位で、卒業研究計画、中間発表、最終発表、卒業論文集の作成を行います。卒業研究に並行して国家試験と認定試験の受験に備えます。

(4) チーム医療教育と総合学習教育

1年次後期にEarly Exposure（早期体験臨床実習）を導入することで、学生自身の将来像を提示し、「より良い医療人」になるために高度な倫理観を持った医療技術者としての育成を目指します。また、チーム医療の一員として、積極的に様々なチームに参画すると共に、積極的に対象者（患者さんや病院のスタッフなど）に対してのコミュニケーション能力を図る総合的な学習や演習（臨床指導や総合演習）を展開していきます。

さらに、卒業研究におけるプレゼンテーションでは自ら考え、実験し、考察できる能力を獲得し、卒業後は臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、さらには生命医科学研究者として、検査や治療および研究における専門性を提言する能力を修得・獲得できることを目指します。また、海外の大学との交換留学制度などを利用することで異文化交流やグローバルな視野を取り入れた総合学習も行います。

2. 教育方法

医療技術者に必要な医療知識・技術を修得するために、臨床検査技師教育プログラム、臨床工学技士教育プログラムにおける科目融合型カリキュラムを編成します。チーム医療を学ぶと共に、チームの中での確で正確な情報を共有し、自らもチームで中心的役割を担えるリーダーシップやリーダーに対する上向きの影響力であるフォロワーシップ能力を修得するための客観的臨床能力試験（objective structured clinical examination：OSCE）を基盤とした学内実習および学外臨床実習を実施します。検査結果を解析・評価できる基礎的技術や能力を修得するために、各種疾患の病態を体系的に学ぶカリキュラムを実践します。医療機器の安全な使用法や保守管理ができる医療技術を修得するために、様々な医療機器の原理と構造および治療法を理解する科目を配置し、実践します。本学科独自のカリキュラムシステムで学生一人ひとりに効果的・効率的な学習環境を提供します。

新入生のモチベーション向上のため、早期体験臨床学習（アーリー・エクスポージャー）を実施します。主体的な学びの力を向上させるために、アクティブラーニング（AL）を取り入れた教育方法をすべての科目で実施します。特に、実習および演習の科目においては、学生の主体的な学びの力を高めるために、連結可能な科目群においてはALを取り入れた教育を実施します。

チーム医療として必要とされる「報告・連絡・相談」が適切にかつ正確に行えるよう、Word、Excel、PowerPointが活用できる実践的情報処理プログラムを実施します。これらの情報処理プログラムは、臨床関連ビッグデータの解析や評価への導入としても応用します。専門教育科目においては、教育の質の確保および学習向上のためのPDCAサイクルの実践に取組みながら、専門性の高い知識や技術の伝達を徹底します。加えて、自ら学びたいという学生の意欲に応えるような学習環境を提供します。学生一人ひとりの学習習得度を評価するための評価試験、小テスト、レポート作成を積極的に実施し、それらを適正に評価した上で、それらを学生一人ひとりにフィードバックします。

臨床検査技師ならびに臨床工学技士国家試験、さらには細胞検査士やME技術者に必要な専門的知識の能力確認のために、学内試験および学外模擬試験の受験を通して学生一人ひとりの修学状況のモニタリングを行い、資格取得に向けたアドバイスを行います。そのためのプログラムを計画的に実施します。学生の授業評価の結果を真摯に受け止め、教育の質の確保およびその向上のためのPDCAサイクルの実践に積極的に取組みます。多くの科目において臨床に則した実験実習を取り入れると共に、自学自習ができる環境を提供します。

3. 教育評価

生命医科学科が開講する諸科目においては、科目担当教員が学生一人ひとりの修学度を「九州医療科学大学GPA運用に関する要項」の規程に定める評価基準を参照しながら、また、学習ポートフォリオ（学修成果の把握である学士力）を用いて厳格に評価します。成果は科目試験で評価すると共に、各年度末には学習の習熟度を個別に把握し、習熟度が不十分と判断した場合には十分な理解が得られるよう、さらなる学習面談・指導を行います。臨床実習の成果は、実習試験、臨床実習先からのルーブリックに準じたスーパーバイザーの実習評価報告、臨床実習後報告会等で総合的に評価します。臨床検査技師と臨床工学技士の国家試験対策は、専門教育科目の到達確認として全国統一模擬試験の結果で判断します。卒業単位認定は、専門教育科目や臨床実習等の修得度を総合的に評価します。

Ⅲ. 入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

本学科は、卒業認定・単位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

1. 求める学生像

- (1) 保健・医療・生命医科学の領域に強い関心がある人
- (2) 物事に対して主体的に行動し、どんなことにも果敢にチャレンジし、努力できる人

- (3) 他者と良好な人間関係とコミュニケーションを築ける人
- (4) 自分の意見や考えを理論的に表現し、相手に分かり易く伝えることができる人

2. 入学までに修得すべき学力・能力

- (1) 高等学校卒業単位の国語・数学・物理・生物・化学・英語など、幅広く修得していることが必要です。特に、生物・化学・数学・物理は基本的な知識を修得しておいて下さい。
- (2) 保健・医療・生命医科学の領域、さらに国際的な活動に強い関心があり、臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、医療機器技術者の資格取得に高い強固な学習意欲を持って下さい。
- (3) 基本的な日本語の文章を理解すると共に、語彙力、読解力、言語力、表記力、文法活用力を身に付けて下さい。
- (4) 学習や課外活動において良好で円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身に付けて下さい。
- (5) 様々な課題や問題について、知識と情報、さらに他者の意見を取り入れながら、筋道を立ててその結果を説明する能力を身に付けて下さい。

臨床心理学部 臨床心理学科 3つのポリシー

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

臨床心理学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、124単位の修得と必修等の条件を充たし、保健・医療・福祉・教育・司法・産業領域の現場のニーズに対応ができる専門知識・技術を修得し、実践力を備えた人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

- (1) 専門職としての基本的態度
専門職として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
- (2) コミュニケーション能力
課題を抱えた人々や、地域、協働する各機関や多職種等とコミュニケーションを図り、適切な支援や連携を取ることができる。
- (3) 実践力
支援が必要な対象者や地域社会に対し、専門的な知識や技術を駆使し、情報収集や検査等により、保健・医療・福祉・教育・司法・産業各領域の問題を分析・的確に把握し、解決法や支援プログラムを導き出していくことができる。
- (4) 社会貢献力
保健・医療・福祉・教育等に参画・連携し、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。
- (5) 自己研鑽力
保健・医療・福祉・教育・司法・産業領域の進歩と改善に対応するため、研究等を通じ、社会や各領域の現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。
- (6) 問題発見・解決力
常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点を、研究を通じて持つことができる。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、建学の理念および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。各コースで、保健・医療・福祉・心理専門職・としての業務に必要な基礎的知識・技能・態度に加えて、保健・医療・福祉・教育・司法・産業領域の現場をイメージした業務内容に対応した知識・技術・態度を身につけることを目的に、カリキュラムを構成しています。各コースで、履修系統図およびモデルカリキュラムを示し、個々の学生が目的とする資格取得のための道筋

をわかりやすく明示します。

1. 教育内容

- (1) 基礎共通科目を通して、幅広い教養および専門職としての思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション能力を養います。
- (2) 専門基礎科目を通して、専門職に必要な人の身体や心理にかかわる基礎知識と技能の獲得を図ります。
- (3) 公認心理師系科目を通して、公認心理師法に基づく公認心理師になるための心理学の高い専門的知識と技能の獲得を図ります。
- (4) 社会福祉系科目を通して、社会福祉法に基づく社会福祉士になるための社会福祉学の高い専門的知識と技能の獲得を図ります。
- (5) 言語聴覚療法専門科目を通して、言語聴覚士法に基づく言語聴覚士になるための言語聴覚療法の高い専門的知識と技能の獲得を図ります。
- (6) 専門分野関連科目を通して、アニマルセラピー、レクリエーションなど全ての人の健康にかかわる豊かな専門性を学びます。
- (7) 総合科目を通して、保健・医療・福祉・教育・司法・産業各領域に対して、常に問題意識を持ち、問題を解決するための視点の獲得を図ります。

2. 教育方法

- (1) 専門教育科目では、主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 専門教育科目では、形成的評価を実施し、適宜フィードバックを行います。
- (3) 公認心理師の資格取得のための「心理実習」では、保健、医療、福祉、教育の現場を通して、公認心理師としての基本的な知識、技術について学び、課題の発見から解決能力の育成をはかります。
- (4) 言語聴覚士の資格取得のための「学外評価臨床実習」「学外総合臨床実習」では、保健、医療、福祉の現場を通じ、言語聴覚療法に関わる支援について学び、かつ、生涯にわたる自己研鑽をするための姿勢を身に付けます。
- (5) チューターとの面接を各年次で実施し、自己学習や実習の「振り返り」を行います。

3. 教育評価

- (1) 公認心理師、言語聴覚士、社会福祉士に必要な演習・実習の履修に当たっては、所定の科目の合格を求めます。
- (2) 2年次のGPA及び2年次までの単位の取得状況を評価し、所定の条件を満たした学生には専門ゼミの履修および卒業研究の着手を認めます。
- (3) 心理・福祉コースの4年間の学修成果は、卒業研究（必修）によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。
- (4) 言語聴覚コースの4年間の学修成果は、学外総合臨床実習、卒業研究（専門ゼミⅢ）と重点試験（専門ゼミⅣ）によって行い、複数の教員によって総合的な評価を行います。

Ⅲ. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

1. 求める学生像

- (1) 医療・保健、福祉、教育領域等の専門性の高い仕事に就く意欲がある人。
- (2) 他人と協働して活動や学習をすることに進んで参加できる人。
- (3) 広い視野を持ち、専門性を活かして地域や個人に対し貢献することができる人。

2. 入学までに修得すべき学力・能力

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

- (2) コミュニケーションの基礎となる、言語能力、表現力、共感性、協働する力などを身に付けている。
- (3) 視野を広げるための旺盛な好奇心、挑戦する意欲、積極的な実行力などを身に付けている。
- (4) 専門的な知識・技能を学習するための基盤となる、聴く力、読む力、書く力、表現する力を身に付けている。

社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

①相手を慮り責任を持って行動できる力

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師きゅう師、救急救命士として、対象者がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域や多職種との連携・協働を行うことができる。

②社会や他者に能動的に貢献しようとする姿勢

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者、はり師きゅう師、救急救命士として、地域社会の動向をふまえ、福祉、スポーツ・健康運動および医療の現場において必要とされる実践力を身につけ、社会や他者のために自ら積極的に責任ある行動をとることができる。

③専門的知識・技能の活用力

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゅう師、救急救命士として、各領域で必要とされる福祉・健康・運動・医療分野の体系的・相互関連的知識の学修成果を、状況に応じて総合的に活用することができる。

④問題発見・解決力

福祉専門職、スポーツ・健康運動指導者およびはり師きゅう師、救急救命士として、福祉、スポーツ・健康運動および医療の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用することで、問題解決のための実践的方法を選択・実行することができる。

分野別		科目	開講年	単位数			開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】 ◎特に重要、○重要、△望ましい				備考
				必修	選択	自由			①	②	③	④	
ナンバリング		学部	学科	コース	難易度	単位区分	開講期	科目区分	通番1	通番2	備考		
大学共通基礎科目	総合教育	英語	1		2		前	30	○	△			各分野から最低1科目以上習得。 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得。 鍼灸健康コースの学生は「コミュニケーション論」は必修。
		英語コミュニケーション	1		2		後	30	○	△			
		情報処理入門	1	1			前	30			○	◎	
		データサイエンスⅠ	1		1		後	30			△	○	
		データサイエンスⅡ	1		1		後	30			△	○	
		キャリア教育	1		2		前	30	○	△			
		コミュニケーション論	1		2		後	30	○	△			
		QOLと人間の尊厳	1	2			前	30	◎	○			
		日向国地域論	1		2		後	30	△	○			
		日向国地域体験学習	1		1		通	30	△	○			
学部共通基礎科目	人間と社会・文化	医療・福祉連携講座	1		1		通	30	△	○			
		ボランティア活動	1		1		通	30	◎	○			
		インターンシップ	1		1		通	30	△	○			
		日本語Ⅰ	1		2		前	30	○	△			
		日本語Ⅱ	1		2		後	30	○	△			
		日本語Ⅲ	2		2		前	30	○	△			
		日本語Ⅳ	2		2		後	30	○	△			
		日本語総合講座Ⅰa	1		2		前	30	○	△			
		日本語総合講座Ⅰb	1		2		後	30	○	△			
		日本語総合講座Ⅱa	1		2		前	30	○	△			
基礎科目	自然科学	日本語総合講座Ⅱb	1		2		後	30	○	△			
		哲学	1		2		後	30	○	△			
		倫理学	2		2		後	30	○	△			
		芸術	1		2		後	30	○	△			
		日本国憲法	2		2		前	30	○	△			
		経済学	2		2		前	30	○	△			
		生物学	1		2		前	30			○	△	
		生理学	1		2		後	30			◎	○	
		就職コンピュータ基礎	2		2		前	30			◎	○	
		生涯スポーツ実習Ⅰ	1		1		前	30			◎	○	
演習	健康	生涯スポーツ実習Ⅱ	1		1		後	30			◎	○	
		健康科学論	2		2		後	30			◎	○	
		基礎演習Ⅰ	1	1			前	30			○	◎	
		基礎演習Ⅱ	1	1			後	30			○	◎	
		社会学	1		2		前	30	◎	◎	○	△	
		心理学概論	1		2		前	30	◎	◎	○	△	
		人体の構造と機能及び疾病	1		2		後	30	◎	◎	○	△	
		児童・家庭福祉	1		2		後	30	◎	◎	○	△	
		障害者福祉	1		2		後	30	◎	◎	○	△	
		高齢者福祉	1		2		前	30	◎	◎	○	△	
福祉・医療共通科目	福祉・医療	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1		2		前	30	◎	◎	○	△	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1		2		後	30	◎	◎	○	△	
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1		2		前	30	◎	◎	○	△	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1		2		後	30	◎	◎	○	△	
		貧困に対する支援	2		2		前	30	◎	◎	○	△	
		社会保障Ⅰ	2		2		前	30	◎	◎	○	△	
		社会保障Ⅱ	2		2		後	30	◎	◎	○	△	
		社会福祉調査の基礎	3		2		前	30	◎	◎	○	△	
		介護概論	2		2		前	30	◎	◎	○	△	
		福祉・医療制度	3		2		前	30	◎	△	◎	○	
学共共通専門科目	介護福祉	依存症の理解と支援	1		2		後	30	◎	△	◎	○	
		精神保健福祉の原理Ⅰ	1		2		後	30	◎	△	◎	○	
		精神疾患とその治療Ⅰ	2		2		後	30	◎	◎	○	△	
		公衆衛生学	3		2		前	30	△	△	◎	○	
		介護の基本Ⅰ	1		2		前	30	◎	◎	○	○	
		介護の基本Ⅱ	1		2		後	30	◎	◎	○	○	
		こころからのぞき	2		2		前	30	◎	◎	○	○	
		障害と老化の理解	2		2		後	30	◎	◎	○	○	
		生活支援技術演習Ⅰ	2		2		前	60	◎	◎	○	○	
		生活支援技術演習Ⅱ	2		1		後	30	◎	◎	○	○	
保健環境科目	保健環境	認知症の理解	3		2		後	30	◎	◎	○	○	
		介護アセスメント	3		2		後	30	◎	◎	○	○	
		福祉住環境論Ⅰ	3		2		前	30			◎	○	
		福祉住環境論Ⅱ	3		2		後	30			◎	○	
		福祉住環境デザイン	3		2		後	30			○	◎	
		福祉施設とまちづくり	3		2		後	30			◎	○	
		教育原論	2		2		前	30	◎	○	○	△	
		教育心理学	3		2		前	30	◎	○	○	△	
		教育相談	3		2		後	30	◎	○	○	△	
		芸術療法	2		2		後	30	◎	○	○	◎	
エーション・レクリエーション科目	エーション・レクリエーション	レクリエーション論	2		2		前	30	◎	○	○	△	
		レクリエーション実技	2		1		後	30	◎	○	○	◎	
		高齢者・障害者スポーツ実習	3		1		前	30	◎	○	○	◎	
		アダプテッドスポーツ論	4		2		前	30	◎	◎	○	○	
		キャリアデザイン演習Ⅰ	2		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅱ	2		1		後	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅲ	2		1		後	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅳ	3		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅴ	2		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅵ	2		1		後	30	△	△	◎	○	
キャリア教育科目	キャリア教育	キャリアデザイン演習Ⅶ	3		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅷ	3		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅸ	2		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅹ	2		1		後	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅺ	3		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅻ	3		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅼ	2		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅽ	2		1		後	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅾ	3		1		前	30	△	△	◎	○	
		キャリアデザイン演習Ⅿ	3		1		前	30	△	△	◎	○	

社会福祉専門科目	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	2	前	30	○	○	○	◎	ソーシャルワークコース、スポーツ科学コースのみ履修可能。
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	2	後	30	○	○	○	◎	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2	前	30	◎	◎	○	△	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	後	30	◎	◎	○	△	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3	2	前	30	◎	◎	○	△	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3	2	後	30	◎	◎	○	△	
	権利擁護を支える法制度	2	2	後	30	◎	◎	○	△	
	保健医療と福祉	3	2	前	30	◎	◎	○	△	
	福祉サービスの組織と経営	3	2	後	30	◎	◎	○	△	
	刑事司法と福祉	3	1	後	30	◎	◎	○	△	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	1	前	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	1	後	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	1	前	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	1	後	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	1	前	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	1	後	30	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	2	後	60	○	○	◎	◎	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	前	180	○	○	◎	◎	
	時事福祉学Ⅰ	4	2	前	30	△	△	◎	△	
	時事福祉学Ⅱ	4	2	後	30	△	△	◎	△	
	スクールソーシャルワーク論	3	2	前	30	◎	◎	○	△	
	スクールソーシャルワーク演習	3	1	後	30	○	○	◎	◎	
	スクールソーシャルワーク実習指導	4	1	前	30	○	○	◎	◎	
精神保健福祉専門科目	スクールソーシャルワーク実習	4	1	前	80	○	○	◎	◎	社会福祉士国家試験受験資格取得見込者のみ履修可能。
	医療ソーシャルワーク演習	3	1	後	30	○	○	◎	◎	
	医療ソーシャルワーク実習指導	4	1	前	30	○	○	◎	◎	
	医療ソーシャルワーク実習	4	1	前	45	○	○	◎	◎	
	精神保健福祉の原理Ⅱ	2	2	前	30	◎	△	◎	△	
	精神疾患とその治療Ⅱ	2	2	後	30	◎	◎	○	△	
	精神障害リハビリテーション論	3	2	前	30	◎	◎	○	△	
	精神保健福祉制度論	2	2	後	30	◎	△	◎	○	
	精神保健の課題と支援Ⅰ	3	2	前	30	◎	○	◎	◎	
	精神保健の課題と支援Ⅱ	3	2	後	30	◎	◎	○	◎	
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ	3	2	前	30	○	△	◎	◎	
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ	3	2	後	30	○	△	◎	◎	
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3	1	後	30	○	○	◎	△	
スポーツ科学専門科目	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	1	前	30	○	○	◎	△	ソーシャルワークコースのみ履修可能。 スポーツ科学コースで「スクールソーシャルワーク教育課程履修希望届」提出者は、精神保健の課題と支援Ⅰを履修可能。
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	1	後	30	○	○	◎	△	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1	後	30	○	○	◎	◎	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	1	前	30	○	○	◎	◎	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4	1	後	30	○	○	◎	◎	
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	3	1	後	30	○	○	◎	◎	
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	4	4	前	180	○	○	◎	◎	
	スポーツマネジメント	4	2	前	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ心理学	2	2	後	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ社会学	3	2	後	30	○	○	◎	◎	
	運動学	3	2	後	30	△	△	◎	◎	
	スポーツ・レクリエーション演習	3	1	後	30	○	○	◎	◎	
	運動生理学	2	2	前	30	△	△	◎	◎	
スポーツ科学専門科目	スポーツ栄養学	2	2	後	30	△	△	◎	◎	スポーツ科学コース、鍼灸健康コース、救急救命コースのみ履修可能。
	バイオメカニクス	1	2	前	30	△	△	◎	◎	
	トレーニング論	4	2	前	30	△	△	◎	◎	
	体力学	2	2	後	30	△	△	◎	◎	
	スポーツ医学Ⅰ	3	2	前	30	△	△	◎	◎	
	スポーツ医学Ⅱ	3	2	後	30	△	△	◎	◎	
	救急対応Ⅰ	1	2	後	30	△	○	◎	◎	
	コーチング論	4	2	前	30	○	○	◎	◎	
	人体の解剖と機能Ⅰ	1	2	後	30	△	△	◎	◎	
	人体の解剖と機能Ⅱ	2	2	前	30	△	△	◎	◎	
	スポーツ科学	4	2	前	30	△	△	◎	◎	
	トレーニング科学	1	2	後	30	△	△	◎	◎	
	スポーツ原理	1	2	前	30	△	○	◎	◎	
	スポーツ健康福祉論	1	2	前	30	○	○	◎	◎	
	運動処方論	3	2	前	30	△	△	◎	◎	
	体力学演習	3	1	前	30	△	△	◎	◎	
	学校保健	3	2	前	30	△	△	◎	◎	
	生活習慣病予防学	4	2	前	30	△	△	◎	◎	
	健康スポーツ実習Ⅰ	1	2	後	60	○	○	◎	◎	
	健康スポーツ実習Ⅱ	2	2	前	60	○	○	◎	◎	
	健康スポーツ現場実習	3	2	通	60	○	○	◎	◎	
	スポーツ教育現場実習Ⅰ	1	1	通	45	○	○	◎	◎	
	スポーツ教育現場実習Ⅱ	2	2	通	60	○	○	◎	◎	
	スポーツ教育現場実習Ⅲ	3	2	通	60	○	○	◎	◎	
	健康運動指導論	3	2	後	30	△	△	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅰ（器械体操）	1	1	後	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅱ（屋外球技）	2	1	後	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅲ（屋内球技）	1	1	後	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅳ（陸上）	2	1	後	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅴ（水泳）	2	1	前	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅵ（ダンス）	2	1	前	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅶ（柔道）	2	1	後	30	○	○	◎	◎	
	スポーツ実習Ⅷ（野外スポーツ実習）	1	1	前	30	○	○	◎	◎	

1	4	C	2	2	1	P	1	1
1	4	C	2	2	2	P	0	9
1	4	C	2	2	1	P	1	2
1	4	C	2	2	2	P	1	0
1	4	C	3	2	1	P	0	9
1	4	C	3	2	2	P	0	8
1	4	C	2	2	2	P	1	1
1	4	C	3	2	1	P	1	0
1	4	C	3	2	2	P	0	9
1	4	C	3	2	2	P	1	0
1	4	C	3	2	1	P	1	3
1	4	C	2	2	2	P	1	2
1	4	C	3	2	1	P	1	1
1	4	C	3	2	2	P	1	1
1	4	C	4	2	1	P	0	2
1	4	C	2	2	2	P	1	3
1	4	C	3	2	1	P	1	2
1	4	C	3	2	2	P	1	2
1	4	C	2	2	2	P	1	4
1	4	C	3	2	1	P	1	3
1	4	C	4	2	1	P	0	3
1	4	C	4	2	2	P	0	1
1	4	C	3	2	1	P	1	4
1	4	C	3	2	2	P	1	3
1	4	C	4	2	1	P	0	4
1	4	C	4	2	1	P	0	5
1	4	C	3	2	2	P	1	4
1	4	C	4	2	1	P	0	6
1	4	C	4	2	1	P	0	7
1	4	C	2	2	1	P	1	4
1	4	C	2	2	2	P	1	5
1	4	C	3	2	1	P	1	5
1	4	C	2	2	2	P	1	6
1	4	C	3	2	1	P	1	6
1	4	C	3	2	2	P	1	5
1	4	C	3	2	1	P	1	7
1	4	C	3	2	2	P	1	6
1	4	C	3	2	2	P	1	7
1	4	C	4	2	1	P	0	8
1	4	C	4	2	2	P	0	2
1	4	C	3	2	2	P	1	8
1	4	C	4	2	1	P	0	9
1	4	C	4	2	2	P	0	3
1	4	C	3	2	2	P	1	9
1	4	C	4	2	1	P	1	0
1	4	C	4	2	1	P	1	1
1	4	C	2	2	2	P	1	7
1	4	C	3	2	2	P	2	0
1	4	C	3	2	2	P	2	1
1	4	C	3	2	2	P	2	2
1	4	C	2	2	1	P	1	5
1	4	C	2	2	2	P	1	8
1	4	C	1	2	1	P	0	7
1	4	C	4	2	1	P	1	2
1	4	C	2	2	2	P	1	9
1	4	C	3	2	1	P	1	8
1	4	C	3	2	2	P	2	3
1	4	C	1	2	2	P	0	9
1	4	C	4	2	1	P	1	3
1	4	C	1	2	2	P	1	0
1	4	C	2	2	1	P	1	6
1	4	C	4	2	1	P	1	4
1	4	C	1	2	2	P	1	1
1	4	C	1	2	1	P	0	8
1	4	C	1	2	1	P	0	9
1	4	C	3	2	1	P	1	0
1	4	C	3	2	1	P	2	1
1	4	C	3	2	1	P	2	1
1	4	C	4	2	1	P	1	5
1	4	C	1	2	2	P	1	2
1	4	C	2	2	1	P	1	7
1	4	C	3	2	3	P	0	1
1	4	C	1	2	3	P	0	1
1	4	C	2	2	3	P	0	1
1	4	C	3	2	3	P	0	2
1	4	C	3	2	2	P	2	4
1	4	C	1	2	2	P	1	3
1	4	C	2	2	2	P	2	0
1	4	C	1	2	2	P	1	4
1	4	C	2	2	2	P	2	1
1	4	C	2	2	1	P	1	8
1	4	C	2	2	1	P	1	9
1	4	C	2	2	2	P	2	2
1	4	C	1	2	1	P	1	0

鍼灸健康専門科目	医学概論	1		2	後	30	◎	○	△	△
	社会保障制度および職業倫理	4		1	後	15	◎	○	△	△
	解剖学Ⅰ	1		2	後	30	△	△	◎	△
	解剖学Ⅱ	2		2	前	30	△	△	◎	△
	解剖学Ⅲ	2		2	後	30	△	△	◎	△
	運動学概論	2		1	前	30	△	○	◎	△
	身体の働きⅠ	2		2	前	30	△	△	◎	△
	身体の働きⅡ	2		2	後	30	△	△	◎	△
	リハビリテーション	3		2	前	30	△	△	◎	△
	病理学概論	2		2	後	30	△	△	◎	△
	衛生学Ⅰ	3		2	前	30	△	△	◎	△
	衛生学Ⅱ	3		2	後	30	△	△	◎	△
	臨床医学総論Ⅰ	2		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床医学総論Ⅱ	2		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床医学各論Ⅰ	2		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床医学各論Ⅱ	3		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床医学各論Ⅲ	3		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床医学各論Ⅳ	4		1	前	30	△	◎	◎	△
	病態生理学	3		1	後	30	△	◎	◎	△
	鍼灸理論	3		2	前	30	△	◎	◎	△
	東洋医学概論Ⅰ	1		2	前	30	△	◎	◎	△
	東洋医学概論Ⅱ	1		2	後	30	△	◎	◎	△
	経絡経穴Ⅰ	1		1	前	30	△	◎	◎	△
	経絡経穴Ⅱ	1		1	後	30	△	◎	◎	△
	経絡経穴Ⅲ	2		1	前	30	△	◎	◎	△
	東洋医学臨床論Ⅰ	2		2	後	30	△	◎	◎	△
	東洋医学臨床論Ⅱ	3		2	前	30	△	◎	◎	△
	東洋医学臨床論Ⅲ	3		2	後	30	△	◎	◎	△
	東洋医学臨床論Ⅳ	4		2	前	30	△	◎	◎	△
	東洋医学臨床論Ⅴ	4		1	後	15	△	◎	◎	△
	物理療法学	3		2	前	30	△	◎	◎	△
	鍼灸治療の安全と適応判断	4		1	前	30	△	◎	◎	△
	鍼灸診断演習	3		1	後	30	△	◎	◎	△
	社会鍼灸学	4		2	前	30	△	○	◎	△
	基礎鍼灸実習	1		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床鍼灸技Ⅰ	2		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床鍼灸技Ⅱ	2		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床鍼灸技Ⅲ	3		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床鍼灸技Ⅳ	3		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床鍼灸技Ⅴ	4		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床鍼灸技Ⅵ	4		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床灸実技Ⅰ	2		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床灸実技Ⅱ	2		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床灸実技Ⅲ	3		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床灸実技Ⅳ	3		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床灸実技Ⅴ	4		1	前	30	△	◎	◎	△
	臨床灸実技Ⅵ	4		1	後	30	△	◎	◎	△
	臨床鍼灸評価実習Ⅰ	2		1	後	30	△	△	◎	△
	臨床鍼灸評価実習Ⅱ	3		1	後	30	△	△	◎	△
	臨床鍼灸実習Ⅰ(治療所)	3		2	通	90	○	◎	◎	◎
	臨床鍼灸実習Ⅱ(治療所)	4		2	通	90	○	◎	◎	◎
	スポーツ健康鍼灸学	3		2	後	30	△	◎	○	△
救急救命専門科目	人体構造学	1		2	前	30			◎	○
	人体機能学	1		2	前	30			◎	○
	薬物療法学	3		1	前	15			◎	○
	病理学	2		2	前	30			◎	○
	生化学	2		1	後	15			◎	○
	免疫・感染症学	2		1	後	15			◎	○
	疾病救急医学Ⅰ	2		2	前	30			◎	○
	疾病救急医学Ⅱ	2		2	後	30			◎	○
	疾病救急医学Ⅲ	3		1	前	15			◎	○
	疾病救急医学Ⅳ	3		2	前	30			◎	○
	疾病救急医学Ⅴ	4		2	前	30			◎	○
	疾病救急医学Ⅵ	4		2	前	30			◎	○
	外傷救急医学Ⅰ	2		2	前	30			◎	○
	外傷救急医学Ⅱ	2		2	後	30			◎	○
	急性中毒学・環境障害	3		1	前	15			◎	○
	救急病態生理学	2		2	前	30			◎	○
	救急症候学	2		2	後	30			◎	○
	救急医学概論	1		2	前	30			◎	○
	救急医学各論	1		2	後	30			◎	○
	救急処置概論	1		2	後	30			◎	○
	救急処置各論	2		2	前	30			◎	○
	災害救急医学	2		2	後	30	△		◎	○
	患者搬送技術論	1		2	後	30	△		◎	○
	ファーストレスポンス実習	1		2	前	90		○	◎	○
	救急処置実習A-Ⅰ	1		4	通	180		○	◎	○
	救急処置実習A-Ⅱ	2		4	通	180		○	◎	○
	救急処置実習A-Ⅲ	3		4	通	180		○	◎	○
	救急処置実習A-Ⅳ	4		4	通	180		○	◎	○
	救急処置実習B-Ⅰ	3		2	後	90	○		◎	○
	救急処置実習B-Ⅱ	3		4	後	180	○		◎	○
	救急処置実習C	3		1	前	45	○		◎	○
	救急救命総合演習Ⅰ	3		2	後	30	△	○	◎	○
	救急救命総合演習Ⅱ	4		2	前	30	△	○	◎	○
	救急救命総合演習Ⅲ	4		2	後	30	△	○	◎	○
総合科目	スポーツ健康福祉学演習Ⅰ	3	1		前	30	○	○	◎	◎
	スポーツ健康福祉学演習Ⅱ	3	1		後	30	○	○	◎	◎
	スポーツ健康福祉学演習Ⅲ	4	1		前	30	○	○	◎	◎
	スポーツ健康福祉学演習Ⅳ	4	1		後	30	○	○	◎	◎
	卒業研究Ⅰ	4	2		前	30	○	○	◎	◎
	卒業研究Ⅱ	4	2		後	30	○	○	◎	◎

鍼灸健康コースの学生は必修。
鍼灸健康コース以外の学生は履修できません。

救急救命コースの学生は必修
(救急処置実習Cを除く)。
救急救命コース以外の学生は履修できません。

1	4	A	1	2	2	P	0	1
1	4	A	4	2	2	P	0	1
1	4	A	1	2	2	P	0	2
1	4	A	2	2	1	P	0	1
1	4	A	2	2	2	P	0	1
1	4	A	2	2	1	P	0	2
1	4	A	2	2	1	P	0	3
1	4	A	2	2	2	P	0	2
1	4	A	3	2	1	P	0	1
1	4	A	2	2	2	P	0	3
1	4	A	3	2	1	P	0	2
1	4	A	3	2	2	P	0	1
1	4	A	2	2	1	P	0	4
1	4	A	2	2	2	P	0	4
1	4	A	2	2	2	P	0	5
1	4	A	3	2	1	P	0	3
1	4	A	3	2	2	P	0	2
1	4	A	3	2	1	P	0	1
1	4	A	3	2	2	P	0	3
1	4	A	3	2	1	P	0	4
1	4	A	1	2	1	P	0	1
1	4	A	1	2	2	P	0	3
1	4	A	1	2	1	P	0	2
1	4	A	1	2	2	P	0	4
1	4	A	2	2	1	P	0	5
1	4	A	2	2	2	P	0	6
1	4	A	3	2	1	P	0	5
1	4	A	3	2	2	P	0	4
1	4	A	4	2	1	P	0	2
1	4	A	4	2	2	P	0	2
1	4	A	3	2	1	P	0	6
1	4	A	4	2	1	P	0	3
1	4	A	3	2	2	P	0	5
1	4	A	4	2	1	P	0	4
1	4	A	1	2	2	P	0	5
1	4	A	2	2	1	P	0	6
1	4	A	2	2	2	P	0	7
1	4	A	3	2	1	P	0	7
1	4	A	3	2	2	P	0	6
1	4	A	4	2	1	P	0	5
1	4	A	4	2	2	P	0	3
1	4	A	2	2	1	P	0	7
1	4	A	2	2	2	P	0	8
1	4	A	3	2	1	P	0	8
1	4	A	3	2	2	P	0	7
1	4	A	4	2	1	P	0	6
1	4	A	4	2	2	P	0	4
1	4	A	2	2	2	P	0	9
1	4	A	3	2	2	P	0	8
1	4	A	3	2	3	P	0	1
1	4	A	4	2	3	P	0	1
1	4	A	3	2	2	P	0	9
1	4	L	1	2	1	P	0	1
1	4	L	1	2	1	P	0	2
1	4	L	3	2	1	P	0	1
1	4	L	2	2	1	P	0	1
1	4	L	2	2	2	P	0	1
1	4	L	2	2	1	P	0	2
1	4	L	2	2	2	P	0	3
1	4	L	3	2	1	P	0	2
1	4	L	3	2	1	P	0	3
1	4	L	4	2	1	P	0	1
1	4	L	4	2	1	P	0	2
1	4	L	2	2	1	P	0	3
1	4	L	2	2	2	P	0	4
1	4	L	3	2	1	P	0	4
1	4	L	2	2	1	P	0	4
1	4	L	2	2	2	P	0	5
1	4	L	1	2	1	P	0	3
1	4	L	1	2	2	P	0	1
1	4	L	1	2	2	P	0	2
1	4	L	2	2	1	P	0	5
1	4	L	2	2	2	P	0	6
1	4	L	1	2	2	P	0	3
1	4	L	1	2	1	P	0	4
1	4	L	1	2	3	P	0	1
1	4	L	2	3	3	P	0	1
1	4	L	3	2	3	P	0	1
1	4	L	3	2	2	P	0	1
1	4	L	3	2	2	P	0	2
1	4	L	3	2	1	P	0	5
1	4	L	3	2	2	P	0	3
1	4	L	4	2	1	P	0	3
1	4	L	4	2	2	P	0	1
1	4	C	3	1	1	P	0	1
1	4	C	3	1	2	P	0	1
1	4	C	4	1	1	P	0	1
1	4	C	4	1	2	P	0	1
1	4	C	4	1	1	P	0	2
1	4	C	4	1	2	P	0	2

アスレティックトレーナーに関する科目	アスレティックトレーナー概論	1			1	前	30	◎	◎	○	△	アスレティックトレーナーに関する科目は卒業要件の単位に含まれません。ソーシャルワークコースは履修できません。
	スポーツ外傷・障害および疾病Ⅰ	2			1	前	30	◎	◎	○	△	
	スポーツ外傷・障害および疾病Ⅱ	2			1	後	30	◎	◎	○	△	
	検査・測定と評価	2			1	前	30	△	△	○	◎	
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防Ⅰ	2			1	前	30	◎	◎	○	△	
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防Ⅱ	2			1	後	30	◎	◎	○	△	
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防Ⅲ	3			1	前	30	◎	◎	○	△	
	救急対応Ⅱ	2			1	前	30	○	○	◎	○	
	コンディショニングⅠ	2			1	後	30	△	△	○	◎	
	コンディショニングⅡ	3			1	前	30	△	△	○	◎	
	コンディショニングⅢ	3			1	後	30	△	△	○	◎	
	リコンディショニングⅠ	2			1	後	30	△	△	○	◎	
	リコンディショニングⅡ	3			1	前	30	△	△	○	◎	
	リコンディショニングⅢ	3			1	後	30	△	△	○	◎	
	アスレティックトレーナー実習Ⅰ	1			1	後	30	○	○	◎	◎	
	アスレティックトレーナー実習Ⅱ	2			1	前	30	○	○	◎	◎	
	アスレティックトレーナー実習Ⅲ	2			1	後	30	○	○	◎	◎	
	アスレティックトレーナー実習Ⅳ	3			1	前	30	○	○	◎	◎	
	アスレティックトレーナー実習Ⅴ	3			1	後	30	○	○	◎	◎	
	アスレティックトレーナー実習Ⅵ	3			1	後	30	○	○	◎	◎	
教職に関する科目	教職論	1			2	後	30	◎	◎	○	△	教職に関する科目は卒業要件の単位に含まれません。スポーツ科学コース、救急救命コースのみ履修可能。ソーシャルワークコースで「スクールソーシャルワーク教育課程履修希望届」提出者は、教職論、教育行政学、特別支援教育を履修可能。
	教育行政学	2			2	後	30	◎	◎	○	△	
	特別支援教育	3			1	前	15	◎	◎	○	△	
	教育課程論	2			2	後	30	◎	◎	○	△	
	保健体育科教育法Ⅰ	3			4	前	60	○	○	◎	◎	
	保健体育科教育法Ⅱ	3			4	後	60	○	○	◎	◎	
	道徳教育の指導法	2			2	後	30	◎	○	○	△	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2			2	前	30	◎	○	○	△	
	教育方法・情報通信技術活用論	3			2	後	30	△	○	○	◎	
	生徒・進路指導論	2			2	前	30	◎	◎	○	△	
	教職実践演習（中・高）	4			2	後	30	○	○	◎	◎	
	教育実習指導	3			1	後	30	○	○	◎	◎	
	教育実習Ⅰ	4			2	通	60	○	○	◎	◎	
	教育実習Ⅱ	4			2	通	60	○	○	◎	◎	
	介護等体験	3			1	後	45	◎	◎	△	△	

1	4	C	1	3	1	P	0	1
1	4	C	2	3	1	P	0	1
1	4	C	2	3	2	P	0	1
1	4	C	2	3	1	P	0	2
1	4	C	2	3	1	P	0	3
1	4	C	2	3	2	P	0	2
1	4	C	3	3	1	P	0	1
1	4	C	2	3	1	P	0	4
1	4	C	2	3	2	P	0	3
1	4	C	3	3	1	P	0	2
1	4	C	3	3	2	P	0	1
1	4	C	2	3	2	P	0	4
1	4	C	3	3	1	P	0	3
1	4	C	3	3	2	P	0	2
1	4	C	1	3	2	P	0	1
1	4	C	2	3	1	P	0	5
1	4	C	2	3	2	P	0	5
1	4	C	3	3	1	P	0	4
1	4	C	3	3	2	P	0	3
1	4	C	3	3	2	P	0	4
1	4	C	1	3	2	T	0	1
1	4	C	2	3	2	T	0	1
1	4	C	3	3	1	T	0	1
1	4	C	2	3	2	T	0	2
1	4	C	3	3	1	T	0	2
1	4	C	3	3	2	T	0	1
1	4	C	2	3	2	T	0	3
1	4	C	2	3	1	T	0	1
1	4	C	3	3	2	T	0	2
1	4	C	2	3	1	T	0	2
1	4	C	4	3	2	T	0	1
1	4	C	3	3	2	T	0	3
1	4	C	4	3	3	T	0	1
1	4	C	4	3	3	T	0	2
1	4	C	3	3	2	T	0	4

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

- ①社会貢献力：福祉を担う人材として、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。
- ②行動力：福祉社会を担う者として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
- ③福祉実践力：地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していくことができる。
- ④コミュニケーション能力：社会的に課題を抱えた地域・人々、協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。
- ⑤教育能力：地域社会の福祉力および社会福祉現場の専門性を向上させるための教育をすることができる。
- ⑥研究能力：社会や福祉の現場の課題を的確に把握し、情報を集め、分析し、考察することができる。
- ⑦自己研鑽力：福祉の進歩と改善に対応するため、社会や福祉現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

分野別		科目	開講年	単位数			開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】 ◎特に重要、○重要、△望ましい							備考	ナンバリング												
				必修	選択	自由			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		学年	学科	コース	履修年度	履修区分	開講期	単位区分	履修1	履修2	備考			
大学共通基礎科目	通共語英	英語	1		2		前	30									各分野から最低1科目以上修得 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得	9	C	C	1	2	1	B	0	1			
		英語コミュニケーション	1		2		後	30										9	C	C	1	2	2	B	0	1			
	教情育報	情報処理入門	1	1		前	30							◎				9	C	C	1	1	1	B	0	1			
		データサイエンスⅠ	1		1		後	30						○				9	C	C	1	2	2	B	0	2			
		データサイエンスⅡ	1		1		後	30								◎			9	C	C	1	2	2	B	0	3		
	総合教育	キャリア教育	1		2		前	30	○		◎							9	C	C	1	2	1	B	0	2			
		コミュニケーション論	1		2		後	30										◎		9	C	C	1	2	2	B	0	4	
		QOLと人間の尊厳	1	2		前	30											◎		9	C	C	1	1	1	B	0	2	
		日向国地域論	1	2		後	30	◎							○				9	C	C	1	2	2	B	0	5		
		日向国地域体験学習	1	1		通	30				◎		○						9	C	C	1	2	3	B	0	1		
医療・福祉連携講座		1	1		通	30						○					9	C	C	1	2	3	B	0	2				
ボランティア活動		1	1		通	30				○				◎			9	C	C	1	2	3	B	0	3				
インターンシップ		1	1		通	30					◎						9	C	C	1	2	3	B	0	4				
学部共通基礎科目	人間と社会・文化	中国語Ⅰ	2	2		前	30					◎				各分野から最低1科目以上修得 学部共通基礎科目の中から14単位以上修得	1	C	C	2	2	1	B	0	1				
		中国語Ⅱ	1	2		後	30					◎						1	C	C	1	2	2	B	0	1			
		日本語Ⅰ	1	2		前	30					◎						1	C	C	1	2	1	B	0	1			
		日本語Ⅱ	1	2		後	30					◎						1	C	C	1	2	2	B	0	2			
		日本語Ⅲ	2	2		前	30					◎						1	C	C	2	2	1	B	0	2			
		日本語Ⅳ	2	2		後	30					◎						1	C	C	2	2	2	B	0	1			
		日本語総合講座Ⅰa	1	2		前	30					◎						1	C	C	1	2	1	B	0	2			
		日本語総合講座Ⅰb	1	2		後	30					◎						1	C	C	1	2	2	B	0	3			
		日本語総合講座Ⅱa	1	2		前	30					◎						1	C	C	1	2	1	B	0	3			
		日本語総合講座Ⅱb	1	2		後	30					◎						1	C	C	1	2	2	B	0	4			
	自然科学	哲学	1	2		後	30							◎			1	C	C	1	2	2	B	0	5				
		倫理学	2	2		後	30					◎			○		1	C	C	2	2	2	B	0	2				
		芸術	1	2		後	30					◎					1	C	C	1	2	2	B	0	6				
		日本国憲法	2	2		前	30							◎			1	C	C	2	2	1	B	0	3				
		経済学	2	2		前	30				◎				○		1	C	C	2	2	1	B	0	4				
		生物学	1	2		後	30							◎			1	C	C	1	2	2	B	0	7				
		生理学	1	2		前	30							◎			1	C	C	1	2	1	B	0	4				
		教職コンピュータ基礎	2	2		前	30							◎			1	C	C	2	2	1	B	0	5				
		教健育康	生涯スポーツ実習Ⅰ	1	1		前	30				◎						1	C	C	1	2	1	B	0	5			
			生涯スポーツ実習Ⅱ	1	1		後	30										1	C	C	1	2	2	B	0	8			
習演礎基	健康科学論	2	2		後	30				◎						1	C	C	2	2	2	B	0	3					
	基礎演習Ⅰ	1	1		前	30					○					1	C	C	1	1	1	B	0	1					
	基礎演習Ⅱ	1	1		後	30					◎					1	C	C	1	1	2	B	0	1					
専門教育科目	社会福祉系科目領域	社会学	1	2		前	30				◎					5科目10単位以上修得	1	3	C	1	2	1	P	0	1				
		心理学概論	1	2		前	30				△	○	◎					1	3	C	1	2	1	P	0	2			
		人体の構造と機能及び疾病	1	2		後	30												1	3	C	1	2	2	P	0	1		
		児童・家庭福祉	1	2		前	30					○	◎						1	3	C	1	2	1	P	0	3		
		障害者福祉	1	2		後	30												1	3	C	1	2	2	P	0	2		
		高齢者福祉	1	2		後	30					◎							1	3	C	1	2	2	P	0	3		
		介護概論	2	2		前	30					○	◎						1	3	C	2	2	1	P	0	1		
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	2		前	30					○	◎						1	3	C	1	2	1	P	0	4		
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	2		後	30					○	◎						1	3	C	1	2	2	P	0	4		
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1	2		前	30					○	◎						1	3	C	1	2	1	P	0	5		
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1	2		後	30					○	◎						1	3	C	1	2	2	P	0	5		
		貧困に対する支援	2	2		前	30					○	◎						1	3	C	2	2	1	P	0	2		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	2		前	30					○	◎						1	3	C	2	2	1	P	0	3		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	2		後	30					○	◎					1	3	C	2	2	2	P	0	1			
		社会保険Ⅰ	2	2		前	30											1	3	C	2	2	1	P	0	4			
		社会保険Ⅱ	2	2		後	30											1	3	C	2	2	2	P	0	2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2		前	30				△	◎		○				1	3	C	2	2	1	P	0	5			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2		後	30					△	◎		○			1	3	C	2	2	2	P	0	3			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3	2		前	30					△	◎		○			1	3	C	3	2	1	P	0	1			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3	2		後	30					△	◎		○			1	3	C	3	2	2	P	0	1			
		権利擁護を支える法制度	2	2		後	30					△	◎					1	3	C	2	2	2	P	0	4			
		社会福祉調査の基礎	3	2		前	30					△	◎			◎		1	3	C	3	2	1	P	0	2			
		保健医療と福祉	3	2		前	30					○	◎					1	3	C	3	2	1	P	0	3			
		福祉サービスの組織と経営	3	2		後	30					△	◎		○			1	3	C	3	2	2	P	0	2			
		刑事司法と福祉	3	2		後	30					△	◎		○			1	3	C	3	2	2	P	0	3			
		スベシフィック領域	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1		前	30				◎	◎				○	介護福祉コースは必修 社会福祉士国家試験受験資格取得見込者のみ履修可	1	3	C	2	2	1	P	0	6		
	ソーシャルワーク演習Ⅱ		2	1		後	30				◎	◎				○	1		3	C	2	2	2	P	0	5			
	ソーシャルワーク演習Ⅲ		3	1		前	30				◎	◎			○		1		3	C	3	2	1	P	0	4			
	ソーシャルワーク演習Ⅳ		3	1		後	30				◎	◎			○		1		3	C	3	2	2	P	0	4			
	ソーシャルワーク演習Ⅴ		4	1		前	30				◎	◎			○		1		3	C	4	2	1	P	0	1			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2	1		後	30				◎	◎			○		1		3	C	2	2	2	P	0	6			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		3	1		前	30				◎	◎			○		1		3	C	3	2	1	P	0	5			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		3	1		後	30				◎	◎			○		1		3	C	3	2	2	P	0	5			
	ソーシャルワーク実習Ⅰ		2	2		後	60				◎	◎			○		1		3	C	2	2	2	P	0	7			
	ソーシャルワーク実習Ⅱ		3	4		前	180				◎	◎			○		1		3	C	3	2	1	P	0	6			
	時事福祉学Ⅰ		4	2		前	30				○	◎				○			1	3	C	4	2	1	P	0	2		
	時事福祉学Ⅱ		4	2		後	30										○		1	3	C	4	2	2	P	0	1		
	連携実践演習		4	1		前	30				○	◎							1	3	C	4	2	1	P				

分野別		科 目	開講年	単 位 数			開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】 ◎特に重要、○重要、△望ましい							備 考	ナンバリング											
				必修	選択	自由			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		学 期	学 科	コ ー ス	難 易 度	単 位 配 分	開 講 期	再 履 修 可 否	通 修 1	通 修 2	備 考		
医療系科目	精神保健福祉系科目	精神疾患とその治療Ⅰ	2	2		前	30			◎							1	3	C	2	2	1	P	0	8			
		精神疾患とその治療Ⅱ	2	2		後	30			◎							1	3	C	2	2	2	P	0	0			
		精神保健の課題と支援Ⅰ	3	2		前	30			◎							1	3	C	3	2	1	P	1	1			
		精神保健の課題と支援Ⅱ	3	2		後	30			◎							1	3	C	3	2	2	P	0	9			
		こころとからだのしくみⅠ	1	2		後	30			◎							1	3	C	1	2	2	P	0	6			
		こころとからだのしくみⅡ	2	2		前	30			◎							1	3	C	2	2	1	P	0	9			
		発達と老化の理解Ⅰ	3	2		前	30			◎							1	3	C	3	2	1	P	1	2			
		発達と老化の理解Ⅱ	3	2		後	30			◎							1	3	C	3	2	2	P	1	0			
		障害の理解	2	2		前	30			◎							1	3	C	2	2	1	P	1	0			
		公衆衛生学	3	2		前	30			◎		○					1	3	C	3	2	1	P	1	3			
		精神保健福祉の原理Ⅰ	1	2		後	30			◎		◎			△		1	3	C	1	2	2	P	0	7			
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2	2		前	30			○		◎			△		1	3	C	2	2	1	P	1	1			
		精神障害リハビリテーション論	3	2		前	30			◎		◎					1	3	C	3	2	1	P	1	4			
		精神保健福祉制度論	2	2		後	30			◎		◎					1	3	C	2	2	2	P	1	1			
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	3	2		前	30			◎		◎					1	3	C	3	2	1	P	1	5			
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	3	2		後	30			◎		◎			△		1	3	C	3	2	2	P	1	1			
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	3	1		後	30			◎		◎			○		1	3	C	3	2	2	P	1	2			
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	1		前	30			◎		◎			○		1	3	C	4	2	1	P	0	8			
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	1		後	30			◎		◎			○		1	3	C	4	2	2	P	0	2			
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		後	30			◎		◎			○		1	3	C	3	2	2	P	1	3			
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	1		前	30			◎		◎			○		1	3	C	4	2	1	P	0	9					
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4	1		後	30			◎		◎			○		1	3	C	4	2	2	P	0	3					
精神保健福祉援助実習Ⅰ	3	1		後	30			◎		◎			○		1	3	C	3	2	2	P	1	4					
精神保健福祉援助実習Ⅱ	4	4		前	180			◎		◎			○		1	3	C	4	2	1	P	1	0					
臨床介護系科目	専門教育科目	介護の基本Ⅰ	1	2		前	30			◎						1	3	K	1	2	1	P	0	1				
		介護の基本Ⅱ	1	2		後	30			◎						1	3	K	1	2	2	P	0	1				
		介護の基本Ⅲ	2	2		前	30			◎						1	3	K	2	2	1	P	0	1				
		介護の基本Ⅳ	2	2		後	30			◎						1	3	K	2	2	2	P	0	1				
		介護福祉学Ⅰ	4	2		前	30			◎						1	3	K	4	2	1	P	0	1				
		介護福祉学Ⅱ	4	2		後	30			◎						1	3	K	4	2	2	P	0	1				
		コミュニケーション技術Ⅰ	3	1		前	30			◎		◎				1	3	K	3	2	1	P	0	1				
		コミュニケーション技術Ⅱ	3	1		後	30			◎		◎				1	3	K	3	2	2	P	0	1				
		生活支援技術演習(基本Ⅰ)	1	1		前	30			○		◎			△		1	3	K	1	2	1	P	0	2			
		生活支援技術演習(基本Ⅱ)	1	1		後	30			○		◎			△		1	3	K	1	2	2	P	0	2			
		生活支援技術演習(応用Ⅰ)	2	1		前	30			○		◎			△		1	3	K	2	2	1	P	0	2			
		生活支援技術演習(応用Ⅱ)	2	1		後	30			○		◎			△		1	3	K	2	2	2	P	0	2			
		生活支援技術演習(終末期)	3	2		前	30			○		◎			△		1	3	K	3	2	1	P	0	2			
		生活支援技術演習(家事Ⅰ)	1	1		前	30			○		◎			△		1	3	K	1	2	1	P	0	3			
		生活支援技術演習(家事Ⅱ)	1	1		後	30			○		◎			△		1	3	K	1	2	2	P	0	3			
		生活支援技術演習(環境Ⅰ)	4	2		前	30			○		◎			△		1	3	K	4	2	1	P	0	2			
		生活支援技術演習(環境Ⅱ)	4	2		後	30			○		◎			△		1	3	K	4	2	2	P	0	2			
		生活支援技術演習(総括)	4	1		前	30			○		◎			△		1	3	K	4	2	1	P	0	3			
		介護過程Ⅰ	2	1		後	30			◎		◎			○		1	3	K	2	2	2	P	0	3			
		介護過程Ⅱ	3	1		前	30			◎		◎			○		1	3	K	3	2	1	P	0	3			
		介護過程Ⅲ	3	2		後	60			◎		◎			○		1	3	K	3	2	2	P	0	2			
		介護過程Ⅳ	4	1		前	30			◎		◎			○		1	3	K	4	2	1	P	0	4			
		介護総合演習Ⅰ	2	1		前	30			◎		◎			○		1	3	K	2	2	1	P	0	3			
		介護総合演習Ⅱ	2	1		後	30			◎		◎			○		1	3	K	2	2	2	P	0	4			
		介護総合演習Ⅲ	3	1		前	30			◎		◎			○		1	3	K	3	2	1	P	0	4			
		介護総合演習Ⅳ	4	1		前	30			◎		◎			○		1	3	K	4	2	1	P	0	5			
		介護実習Ⅰ	2	3		前	135			◎		◎			○		1	3	K	2	2	1	P	0	4			
		介護実習Ⅱ	2	3		後	135			◎		◎			○		1	3	K	2	2	2	P	0	5			
		介護実習Ⅲ	3	4		後	180			◎		◎			○		1	3	K	3	2	2	P	0	3			
		医療的ケアⅠ	3	2		前	60			◎		◎					1	3	K	3	2	1	P	0	5			
		医療的ケアⅡ	3	1		後	30			◎		◎					1	3	K	3	2	2	P	0	4			
		臨床福祉学科科目	臨床福祉系科目	福祉住環境論Ⅰ	3	2		前	30			○		◎				1	3	C	3	2	1	P	1	6		
				福祉住環境論Ⅱ	3	2		前	30			○		◎				1	3	C	3	2	1	P	1	7		
				福祉住環境デザイン	3	2		後	30			○		◎				1	3	C	3	2	2	P	1	5		
				福祉施設とまちづくり	3	2		後	30			○		◎				1	3	C	3	2	2	P	1	6		
				教育原論	2	2		前	30			○		◎			○		1	3	C	2	2	1	P	1	2	
				教育心理学	3	2		前	30			○		◎			○		1	3	C	3	2	1	P	1	8	
				教育相談	3	2		後	30			○		◎			○		1	3	C	3	2	2	P	1	7	
				社会・集団・家族心理学	1	2		後	30			○		◎				1	3	C	1	2	2	P	0	8		
				発達心理学	1	2		前	30			○		◎				1	3	C	1	2	1	P	0	6		
臨床心理学概論	1			2		後	30			○		◎				1	3	C	1	2	2	P	0	9				
福祉心理学	3			2		後	30			○		◎				1	3	C	3	2	2	P	1	8				
芸術療法	3			2		後	30			○		◎				1	3	C	3	2	2	P	1	9				
総合科目	レクリエーション論	2	2		前	30			◎		◎				1	3	C	2	2	1	P	1	3					
	レクリエーション実技	2	1		後	30			◎		◎				1	3	C	2	2	2	P	2	2					
	アダプテッドスポーツ論	4	2		前	30			◎		◎				1	3	C	4	2	1	P	1	1					
	高齢者・障害者スポーツ実習	3	1		前	30			◎		◎				1	3	C	3	2	1	P	1	9					
	フィールドワーク演習Ⅰ	3	1		後	30			◎			○			1	3	C	3	2	2	P	2	0					
	フィールドワーク演習Ⅱ	4	1		前	30			◎			○			1	3	C	4	2	1	P	1	2					
	臨床福祉学演習Ⅰ	3	1		後	30			△		○		◎		1	3	C	3	1	1	P	0	1					
	臨床福祉学演習Ⅱ	3	1		後	30			△		○		◎		1	3	C	3	1	2	P	0	1					
	臨床福祉学演習Ⅲ	4	1		前	30			△		○		◎		1	3	C	4	1	1	P	0	1					
	臨床福祉学演習Ⅳ	4	1		後	30			△		○		◎		1	3	C	4	1	2	P	0	1					
	卒業研究Ⅰ	4	2		前	30			△		○																	

薬学部 薬学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

①薬剤師としての倫理観

医療人として高い倫理観と豊かな人間性を持ち、患者、家族、生活者の人権や尊厳に配慮して、人の命と健康な生活を守るために行動できる。

②患者を中心としたチーム医療への参画

常に患者の立場に立ち、コミュニケーション能力をもって患者・患者家族・他の医療職種と相互の立場を尊重した人間関係を構築してチーム医療へ参画できる。

③最適な薬物療法の実践

医薬品・化学物質等の生体及び環境に対する影響を理解した上で、適切に管理・供給し、個々の患者に適した安全で効果的な薬物療法を実践できる。

④地域の保健医療への貢献

地域住民の視点に立ち、地域の保健医療のニーズを理解した上で、他職種と連携して人々の健康増進と公衆衛生の向上に貢献できる。

⑤医療の進歩への貢献

自己研鑽に努め、問題点や社会的動向を把握し、解決に向けて取り組む姿勢を持つとともに、次世代を担う人材の養成を行い、薬学・医療の進歩と改善に貢献できる。

分野別	新カリキュラム	開講年	単 位 数			開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】				備 考
			必修	選択	自由			①	②	③	④	
大学共通基礎科目	総合教育	英語	1	2		前	30				◎	必須9単位、選択3単位、小計12単位以上修得
		英語コミュニケーション	1	2		後	30				△	
		情報処理入門	1	1		前	30		◎		◎	
		データサイエンスⅠ	1		1	後	30				◎	
		データサイエンスⅡ	1		1	後	30		△		◎	
		キャリア教育	1	2		前	30	○	◎			
		コミュニケーション論	1	2		前	30		◎			
		QOLと人間の尊厳	1	2		前	30	◎	△	△	○	
		日向国語院	1		2	前	30				◎	
		日向国語院聴覚学習	1		1	通	30				◎	
基礎科目	学科基礎科目	医療・福祉連携講座	1	1	1	通	30				◎	必須14単位、選択2単位、小計14単位以上修得
		ボランティア活動	1		1	通	30	△	△		◎	
		インターンシップ	1		1	通	30		◎			
		外書講読	3	1		前	30				◎	
		理科系作文法入門	1			前	30				◎	
		理科系作文法演習	1	1		後	30				◎	
		生物学	1	1		前	30		◎			
		基礎機能形態学	1	1		前	30		◎			
		物理学	1	1		前	30		◎			
		化学入門	1		1	前	30			◎		
専門教育科目	学科専門導入科目	化学	1	1		前	30			◎		基礎科目合計26単位以上修得
		薬学数学	1	1		前	30			◎		
		薬学数学演習	1		1	前	30			◎		
		統合医療からみた身体	2		1	前	30	◎	◎			
		倫理学	2		1	前	30	◎				
		哲学	2		1	前	30	◎				
		薬学入門	1	1		前	30	◎	○	△	○	
		プレゼンテーション概論	1	1		後	30		◎		△	
		薬学と生命倫理入門	2	1		後	30	◎				
		臨床薬学入門	1	1		後	30			○		
専門教育科目	学科専門導入科目	総合学習Ⅰ	1	1		前	30		○		◎	基礎科目合計26単位以上修得
		無機化学	1	1		後	30			◎		
		基礎有機化学	1	1		後	30			◎		
		有機化学Ⅰ	2	1		前	30			◎	○	
		分析化学Ⅰ	1	1		後	30			◎		
		物理化学Ⅰ	2	1		前	30			◎		
		基礎生化学	1	1		後	30			◎		
		生化学Ⅰ	2	1		前	30			◎		
		生物統計学入門	2	1		前	30			◎		
		臨床生薬学入門	2	1		前	30			◎		
専門教育科目	学科専門導入科目	機能形態学演習Ⅰ	1	1		後	30			◎		基礎科目合計26単位以上修得
		機能形態学演習Ⅱ	1	1		後	30			◎		
		生理・薬理学Ⅰ	2	1		後	30			◎		
		基礎衛生薬学	1	1		後	30		○	◎		
		衛生薬学Ⅰ	2	1		前	30		○	◎		
		総合学習Ⅱ	2	1		前	30		○		◎	
		総合学習Ⅲ	3	1		前	30		○		◎	
		医薬品情報学	4	2		後	30					
		薬学と生命倫理演習	3		1	前	30	◎				
		コミュニケーション演習	4	1		後	30		◎			
専門教育科目	学科専門導入科目	薬学英語Ⅰ	2		1	前	30				◎	基礎科目合計26単位以上修得
		薬学英語Ⅱ	4		1	後	30				◎	
		有機化学Ⅱ	2	2		後	30					
		有機化学Ⅲ	3	2		後	30				○	
		医薬品化学	4	2		前	30			◎		
		抗がん剤・薬品学	2	2		後	30					
		生物有機化学	3	2		前	30		◎	△	○	
		分析化学Ⅱ	2	2		前	30		◎			
		分析化学Ⅲ	2	2		前	30				△	
		分析化学Ⅳ	3	2		前	30		◎			
専門教育科目	学科専門導入科目	有機構造解析演習	3	1		後	30			△	○	基礎科目合計26単位以上修得
		物理化学Ⅱ	2	1		後	15		◎			
		生化学Ⅱ	2	2		後	30		◎			
		生化学Ⅲ	2	2		後	30		◎			
		ウイルス学	2	2		後	30		◎			
		細菌学	3	2		前	30		◎			
		分子細胞生物学	3	2		前	30		◎			
		腫瘍治療学	4	2		後	30		△			
		天然医薬品化学	3	2		後	30				△	
		臨床薬方生薬学	4	2		後	30		○	◎		
専門教育科目	学科専門導入科目	生理・薬理学Ⅱ	2	2		後	30			◎		基礎科目合計26単位以上修得
		生理・薬理学Ⅲ	3	2		前	30			◎		
		生理・薬理学Ⅳ	3	2		後	30			◎		
		免疫学	3	2		前	30			◎		
		臨床医学概論	4	2		後	30			◎		
		衛生薬学Ⅱ	3	2		後	30		○	◎		
		衛生薬学Ⅲ	3	2		後	30			◎		
		衛生薬学Ⅳ	3	2		後	30			◎		
		臨床検査学	3	2	1	前	30					
		薬学管理Ⅰ	4	2		後	30			◎		
専門教育科目	学科専門導入科目	臨床製剤学	3	2		後	30			◎		基礎科目合計26単位以上修得
		生物薬剤学	2	2		後	30			◎		
		物理薬剤学	2	2		後	30			◎		
		物理製剤学	3	2		前	30			◎		
		調剤学	3	2		後	30			◎		
		薬物動態学演習Ⅰ	3	1		前	30			◎		
		薬物動態学演習Ⅱ	3	1		後	30			◎		
		薬物治療Ⅰ	3	2		後	30			◎		
		薬物治療Ⅱ	3	2		後	30			◎		
		薬物治療Ⅲ	4	2		前	30			◎		
専門教育科目	学科専門導入科目	薬物治療Ⅳ	4	2		前	30			◎		基礎科目合計26単位以上修得
		薬物治療Ⅴ	4	2		前	30			◎		
		一般用医薬品学	4	2		前	30			◎		
		薬事関係法規Ⅰ	4	2		前	30		◎			
		薬事関係法規Ⅱ	6	2		前	30		◎			
		治療コーディネーター論	6	2		前	30		◎			
		地域医療	4		1	前	30	△	△	○	◎	
		薬学分野演習演習	4		1	前	30	△	△	○	◎	
		基礎薬学総合演習	4	5	1	通	150	△	△	◎	△	
		臨床推論	5	1		後	30			◎		
専門教育科目	学科専門導入科目	アドバンスト薬学演習	5	1		後	30			◎	○	△
		一般用医薬品学演習	5	1		後	30		◎	○		
		漢方治療学演習	5		1	後	30		○			
		薬学総合演習Ⅰ	6	3		前	90	△	△	◎	△	
		薬学総合演習Ⅱ	6	3		後	90	△	△	◎	△	
		薬化学実習	2	1		後	45			◎		
		分析学実習	2	1		後	45			△		○
		生薬学実習	2	1		後	45		△	◎		
		基礎生化学実習	3	1		前	45		○	◎		
		生化学実習	3	1		前	45			◎		
専門教育科目	学科専門導入科目	基礎薬理学実習	3	1		前	45					
		薬理学実習	3	1		後	45			◎		
		薬理学実習	3	1		後	45			◎		
		衛生薬学実習	3	1		後	45		○	◎	○	
		実務実習事前学習Ⅰ	4	1		通	45		○	◎		
		実務実習事前学習Ⅱ	4	1		通	45		△	◎		
		実務実習事前学習Ⅲ	4	1		通	45					
		特別研究Ⅰ	5	4		通	180		△			◎
		特別研究Ⅱ	6	8		通	360		△			◎
		実務実習Ⅰ	5	10		通	450		○	◎	○	
専門教育科目	学科専門導入科目	実務実習Ⅱ	5	10		通	450		○	◎	○	

【卒業要件】

大学共通基礎科目12単位以上、学科基礎科目14単位以上、合計26単位以上修得のこと。

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

- ①問題発見・解決能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、問題解決学習法（Problem-based Learning：以下PBL）の手法を用いて、問題を発見したうえで解決する能力を身に付けることができる。
- ②論理的構築能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、目的・目標、方法及び計画について、策定し説明する能力を修得している。
- ③協調性を伴うコミュニケーション能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、他者の立場を尊重しながらコミュニケーションを働きかけ、チームとして協働する能力を修得している。
- ④専門的知識・技能に関する実践能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、策定した計画をチームとして実際に行動する能力を修得している。
- ⑤グローバル化に対応する能力：動物及び薬の専門職に関する現場において、国の内外からの情報を入手し考察して、国際社会に対応する能力を修得している。

分野別			科 目	開講 年	単 位 数		開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】 ◎特に重要、○重要、△望ましい					備 考	ナンバリング											
					必修	選択			①	②	③	④	⑤		学部	学科	コース	難易 度	単位 区分	開講 期	科目 区分	通番 Ⅰ	通番 Ⅱ	備考		
基礎科目	大学共通基礎科目	共通語 教育情報	英語	1	2	前	30			○		◎	大学共通基礎科目の中から10単位以上修得	9	C	C	1	1	1	B	0	1				
			英語コミュニケーション	1		前	30		○	○		◎		9	C	C	1	2	1	B	0	1				
			情報処理入門	1	1	前	30		◎			○		9	C	C	1	1	1	B	0	2				
			データサイエンスⅠ	1		後	30		○			○		9	C	C	1	2	2	B	0	1				
		データサイエンスⅡ	1		後	30		○			○	9		C	C	1	2	2	B	0	2					
		総合教育	キャリア教育	1	2	前	30	○				○		9	C	C	1	1	1	B	0	3				
			コミュニケーション論	1		後	30				○			9	C	C	1	2	2	B	0	3				
			QOLと人間の尊厳	1	2	前	30	○			○			9	C	C	1	1	1	B	0	4				
			日向国地域論	1		後	30	△						9	C	C	1	2	2	B	0	4				
			日向国地域体験学習	1		通	30	○			○			9	C	C	1	2	3	B	0	1				
			医療・福祉連携講座	1		通	30	○						9	C	C	1	2	3	B	0	2				
			ボランティア活動	1		通	30	△			○			9	C	C	1	2	3	B	0	3				
			インターンシップ	1		通	30	○			○			9	C	C	1	2	3	B	0	4				
			学科基礎科目	大学英语Ⅰ	1		後	30			○	○			◎	学科基礎科目の中から14単位以上修得すること。	3	2	C	1	2	2		B	0	1
				大学英语Ⅱ	1		後	30			○	○			◎		3	2	C	1	2	2		B	0	2
	実用英語Ⅰ			2		2	前	30			○	○		○	3		2	C	2	2	1	B		0	1	
	実用英語Ⅱ	2			2	後	30			○	○		○	3	2		C	2	2	2	B	0		1		
	実用英語Ⅲ	2			2	前	30			○	○		○	3	2		C	2	2	1	B	0		2		
	実用英語Ⅳ	2			2	後	30			○	○		○	3	2		C	2	2	2	B	0		2		
	社会学	1			2	前	30				○		△	3	2		C	1	2	1	B	0		1		
	心理学	1			2	前	30				○		△	3	2		C	1	2	1	B	0		2		
	歴史と社会	2			2	前	30				○		△	3	2		C	2	2	1	B	0		3		
	アジアと世界	2			2	後	30				○		△	3	2		C	2	2	2	B	0		3		
	哲学	2			2	前	30				○		△	3	2		C	2	2	1	B	0		4		
	倫理学	1			2	前	30				○		△	3	2		C	1	2	1	B	0		3		
	数学Ⅰ	1			2	前	30				○		△	3	2		C	1	2	1	B	0		4		
	数学Ⅱ	1			2	後	30			○			△	3	2		C	1	2	2	B	0		3		
	化学Ⅰ	1			2	前	30			◎			△	3	2		C	1	2	1	B	0		5		
	化学Ⅱ	1			2	後	30			○			△	3	2		C	1	2	2	B	0		4		
	生物学Ⅰ	1			2	前	30			◎			△	3	2		C	1	2	1	B	0		6		
	生物学Ⅱ	1			2	後	30			◎			△	3	2		C	1	2	2	B	0		5		
	専門教育科目	専門基礎科目	生命倫理・動物福祉	1		2	後	30	○	◎	◎	◎	○	専門基礎科目の中から30単位以上修得すること。	3	2	C	1	2	2	P	0		1		
			動物解剖学	1	2		前	30		◎			○		3	2	C	1	1	1	P	0		1		
			動物生理学Ⅰ	1	2		前	30		◎			○		3	2	C	1	1	1	P	0		2		
			動物生理学Ⅱ	1	2		後	30		◎			○		3	2	C	1	1	2	P	0		1		
			動物繁殖学	3		2	前	30		○			○		3	2	C	3	2	1	P	0		1		
			動物行動学	4		2	後	30		○			○		3	2	C	4	2	2	P	0		1		
			動物栄養学	3		2	前	30		○			○		3	2	C	3	2	1	P	0		2		
			畜産学	3		2	後	30		○			○		3	2	C	3	2	2	P	0		1		
			実験動物学Ⅰ	2	2		前	30		◎			○		3	2	C	2	1	1	P	0		1		
			実験動物学Ⅱ	2	2		後	30		◎			○		3	2	C	2	1	2	P	0		1		
			野生動物学	4		2	前	30		○			○		3	2	C	4	2	1	P	0		1		
			動物看護関連法規	2		1	後	30		◎			○		3	2	C	2	2	2	P	0		1		
			動物愛護・適正飼養関係法規	2		1	後	30		◎			○		3	2	C	2	2	2	P	0		2		
			動物解剖学実習Ⅰ	1	1		前	45		◎			○		3	2	C	1	1	1	P	0		3		
			動物解剖学実習Ⅱ	1	1		後	45		◎			○		3	2	C	1	1	2	P	0		2		
			組織学	1	2		前	30		◎			○		3	2	C	1	1	1	P	0		4		
			有機化学Ⅰ	1	2		後	30		○			○		3	2	C	1	1	2	P	0		3		
			有機化学Ⅱ	2		2	前	30		○			○		3	2	C	2	2	1	P	0		1		
			基礎生化学	1	2		前	30		○			○		3	2	C	1	1	1	P	0		5		
			生物統計学	2		2	前	30		○			○		3	2	C	2	2	1	P	0		2		
			飼料学	3		2	後	30		○			○		3	2	C	3	2	2	P	0		2		
			実験動物学演習	3		1	前	30		○			○		3	2	C	3	2	1	P	0		3		
			実験動物学実習	3		1	前	45		○			○		3	2	C	3	2	1	P	0		4		
	専門教育科目	専門科目	微生物学	2	2		前	30		◎			○	専門科目の中から70単位以上修得すること。	3	2	C	2	1	1	P	0		2		
			微生物学実習	2	1		後	45		◎			○		3	2	C	2	1	2	P	0		2		
			動物看護学概論	1		2	後	30		○			○		3	2	C	1	2	2	P	0		2		
			生物多様性	2		2	後	30		○			○		3	2	C	2	2	2	P	0		3		
			統合生理学	4		2	後	30		○			○		3	2	C	4	2	2	P	0		2		
			動物病理学Ⅰ	2	2		前	30		◎			○		3	2	C	2	1	1	P	0		3		
			動物病理学Ⅱ	2		2	後	30		○			○		3	2	C	2	2	2	P	0		4		
			寄生虫学	2	2		後	30		◎			○		3	2	C	2	1	2	P	0		3		
			動物薬理学Ⅰ	2	2		前	30		◎			○		3	2	C	2	1	1	P	0		4		
			動物薬理学Ⅱ	2	2		後	30		◎			○		3	2	C	2	1	2	P	0		4		
			臨床薬理学	4		2	前	30		○			○		3	2	C	4	2	1	P	0		2		
			動物感染症学Ⅰ	3		2	前	30		◎			○		3	2	C	3	2	1	P	0		5		
			動物感染症学Ⅱ	3		2	後	30		◎			○		3	2	C	3	2	2	P	0		3		
			公衆衛生学Ⅰ	2	2		前	15		◎			○		3	2	C	2	1	1	P	0		5		
			公衆衛生学Ⅱ	2	2		後	30		◎			○		3	2	C	2	1	2	P	0		5		
			動物内科看護学	2		2	前	30		◎			○		3	2	C	2	2	1	P	0		3		
			動物外科看護学	3		2	前	30		◎			○		3	2	C	3	2	1	P	0	6			
動物臨床看護学総論			2		2	後	30		◎			○	3		2	C	2	2	2	P	0	5				
動物臨床看護学各論Ⅰ			3		2	前	30		◎			○	3		2	C	3	2	1	P	0	7				
動物臨床看護学各論Ⅱ			3		2	前	30		◎			○	3		2	C	3	2	1	P	0	8				
動物臨床看護学各論Ⅲ			3		2	後	30		◎			○	3		2	C	3	2	2	P	0	4				
動物臨床看護学演習Ⅰ			4		1	前	30		○			○	3		2	C	4	2	1	P	0	3				
動物臨床看護学演習Ⅱ			4		1	後	30		○			○	3		2	C	4	2	2	P	0	3				
動物臨床検査学			3		2	前	30		◎			○	3		2	C	3	2	1	P	0	9				
動物医療コミュニケーション			2		2	前	30		○			○	3		2	C	2	2	1	P	0	4				
愛玩動物学			3		2	前	30		○			○	3		2	C	3	2	1	P	1	0				
人と動物の関係学			3		2	前	30		○			○	3		2	C	3	2	1	P	1	1				
適正飼養指導論			3		1	後	15		○			○	3		2	C	3	2	2	P	0	5				
動物生活環境学			4		1	後	15		○			○	3		2	C	4	2	2	P	0	4				
ペット関連産業概論			4		1	前	15		○			○	3		2	C	4	2	1	P	0	4				
生涯学習概論			4		2	後	30		○			○	3		2	C	4	2	2	P	0	5				
博物館概論			2		2	前	30		○			○	3		2	C	4	2	2	P	0	5				
博物館経営論			4		2	後	30		○			○	3		2	C	4	2	2	P	0	6				
博物館資料論Ⅰ			3		1	前	15		○			○	3		2	C	3	2	1	P	1	2				
博物館資料論Ⅱ			3		1	後	15		○			○	3		2	C	3	2	2	P	0	6				
博物館資料保存論			3		2	後	30		○			○	3		2	C	3	2	2	P	0	7				
博物館展示論Ⅰ			3		1	前	15		○			○	3		2	C	3	2	1	P	1	3				
博物館展示論Ⅱ			3		1	後	15		○			○	3		2	C	3	2	2	P	0	8				
博物館教育論			4		2	前	30		○			○	3		2	C	4	2	1	P	0	5				
博物館情報・メディア論			4		2	後	30		○			○	3		2	C	4	2	2	P	0	7				
博物館実習			4		3	前	90		○			○	3		2	C	4	2	1	P	0	6				
動物実習基礎Ⅰ			1	1		前	45	◎	◎		○		○		3	2	C	1	1	1	P	0	6			
動物実習基礎Ⅱ			1	1		後	45	◎	◎		○		○		3	2	C	1	1	2	P	0	4			
動物実習基礎Ⅲ			2	1		前	45	◎																		

生命医科学部 生命医科学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

- ①自律的行動力：医療技術者として高度な倫理観と責任感をもち、臨床検査技師、臨床工学士、細胞検査士、ME技術者、または生命医科学者の業務および法令を遵守し、医療の発展に貢献ができる。また、目標を明確に掲げ、医療・生命医科学における諸問題に対して主体的・自律的に行動することができる。さらに、最新の医療情報や医療技術に関心をもち、常に高度な専門性と技術を追求することができる。
- ②問題発見・解決能力：医療技術者である臨床検査技師、臨床工学士、細胞検査士、ME技術者、さらには生命医科学者の立場から、医療・生命医科学領域における諸課題について、様々な問題を発見できる。また、問題解決に必要な論理的・実践的知識を持ち合せると共に、適切な研究・実践方法を用いて取り組むことができる。臨床検査と臨床工学の専門的知識と技術を総合的に活用し、諸課題を論理的かつ的確に解決できる。
- ③対象者を支援する汎用的能力：医療技術者である臨床検査技師、臨床工学士、細胞検査士、ME技術者、さらに生命医科学者として、ジェネリックスキル（汎用的能力）を活用して、対象者（患者様や多職種者）がもつ背景や価値観を多面的に理解し、相手の立場を尊重できる。医療専門職として、他の専門職と連携・協働することにより、信頼感と高いレベルで対象者を支援できる。
- ④専門的知識・技能の活用力：高度な専門的知識をもとに、医療における臨床検査体制と臨床工学体制を構築し実践できる。医療技術者である臨床検査技師、臨床工学士、細胞検査士、ME技術者、さらには生命医科学者に必要とされる科学的専門知識と技能・技術を活用できる。
- ⑤コミュニケーション能力：医療技術者として他職種、患者様ならびにご家族に対して医療技術を提供・遂行する上で必要となるコミュニケーション能力を発揮することができる。さらに、円滑なコミュニケーション能力を用いて、相手の立場を尊重した人間関係を構築できる。社会的に課題を抱えた地域・人々、さらに協働する多機関や多職種等とスムーズにコミュニケーションを図り、適切な支援に結び付けることができる。
- ⑥チームワークとリーダーシップ：医療技術者の一員として他職種（例えば、医療従事者全般）の考えを理解し、連携・協働ができる。チーム医療の一員として、対象者および他の職種と良好なチームワークを図りながら、職務を遂行できると共に、リーダーシップやフォロワーシップを発揮できる。
- ⑦人間力：医療技術者として豊かな人間性を持つと共に、公衆衛生、医療行政、社会の動向を理解し、医療・生命医科学に必要とされる高度な倫理観と人間理解力（人間力）を身につけ、社会や他者のために責任ある行動や努力する態度が取れる。
- ⑧プレゼンテーション能力：医療技術者である臨床検査技師、臨床工学士、細胞検査士、ME技術者、さらに生命医科学者として、諸課題の本質を的確にとらえ、情報を収集・分析・考察した上で、それらを効果的にプレゼンテーションできる。プレゼンテーションがコミュニケーションであることを理解することができる。自分の想いを相手に伝え、相手が理解していることを確認することができる。相手にとって興味・関心のある話題を投げかけることができ、プレゼンテーションのための具体的な準備を行うことができる。
- ⑨自己研鑽と自己実現意欲：臨床検査技師または臨床工学士国家試験、細胞検査士ならびにME技術者認定試験を受験するに値する十分な学力と自己研鑽を持ち合せている。また、生命医科学者として必要とされる統合的な学習経験と高度な専門知識、さらには学修成果を状況に応じ総合的に活用できる。医学・医療の現状を認識し、生涯を通じて最新の医療情報や医療技術の進歩に関心をもち続けると共に、自己実現意欲を常に向上させることができる。

分野別		科 目	開講年	単 位 数		開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】 ◎特に重要、○重要、△望ましい											備 考	ナンバリング										
				必修	選択			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	学第	学科		コース	難易度	履修区分	科目区分	通修1	通修2	備考				
大学共通基礎科目	情報教育	英語	1	2		前	30				△		◎						各分野から最低1科目以上修得 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得すること。	9	C	C	1	1	1	B	0	1		
		英語コミュニケーション	1		2	後	30				△		○							○	9	C	C	1	2	2	B	0	1	
		情報処理入門	1	1		前	30	○												○	9	C	C	1	1	1	B	0	2	
		データサイエンスⅠ	1		1	後	30	○													9	C	C	1	2	2	B	0	2	
		データサイエンスⅡ	1		1	後	30	○												○	9	C	C	1	2	2	B	0	3	
		キャリア教育	2		2	前	30	◎	○					○							9	C	C	2	2	1	B	0	1	
		コミュニケーション論	1		2	前	30						◎				○				9	C	C	1	2	1	B	0	1	
		QOLと人間の尊厳	1	2		前	30	○				○			◎						9	C	C	1	1	1	B	0	3	
		日向国地域論	1		2	後	30					○			△						9	C	C	1	2	2	B	0	4	
		日向国地域体験学習	1		1	通	30	◎	○				◎	◎	◎	○	○	○		○	9	C	C	1	2	3	B	0	1	
基礎科目	総合教育	医療・福祉連携講座	1		1	通	30	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎		学科基礎科目の中から14単位以上修得すること。	9	C	C	1	2	3	B	0	2		
		ボランティア活動	1		1	通	30							○	○	○	○	◎		9	C	C	1	2	3	B	0	3		
		インターンシップ	1		1	通	30	◎	○	○			◎	◎	○	○	○	○		9	C	C	1	2	3	B	0	4		
		医療英語	2		2	前	30				△		◎	△				△		4	I	C	2	2	1	B	0	1		
		生涯スポーツ論	1		2	前	30				○			◎	◎					4	I	C	1	2	1	B	0	1		
		生涯スポーツ実習	1		1	後	30						◎	◎		△				4	I	C	1	2	2	B	0	1		
		健康科学論	1		2	前	30			○	○			△						4	I	C	1	2	1	B	0	2		
		物理学	1		2	前	30							△						○	4	I	C	1	2	1	B	0	3	
		化学	1		2	前	30								△					○	4	I	C	1	2	1	B	0	4	
		生物学	1		2	前	30								△					○	4	I	C	1	2	1	B	0	5	
基礎科目	学科基礎科目	分子生物学	1		2	後	30			○			△					○	学科基礎科目の中から14単位以上修得すること。	4	I	C	1	2	2	B	0	2		
		法学	1		2	前	30					◎			○					4	I	C	1	2	1	B	0	6		
		心理学	2		2	前	30	◎		△	○			△	○			○		4	I	C	2	2	1	B	0	2		
		生命倫理学	2	2		後	30				○				◎					4	I	C	2	1	2	B	0	1		
		医学概論	1	2		前	30			○	○			○	△	△		◎		4	I	C	1	1	1	B	0	1		
		生命医科学概論	1	2		前	30						○		△			○		4	I	C	1	1	1	B	0	2		
		医療統計学	2		2	後	30					○		◎	△			◎		4	I	C	2	2	2	B	0	1		
		公衆衛生学	1	2		後	30			○		◎		△	○			◎		4	I	C	1	1	2	P	0	1		
		解剖学Ⅰ	1	2		前	30			○				◎	△	△		◎		4	I	C	1	1	1	P	0	1		
		解剖学Ⅱ	2		2	前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	C	2	2	1	P	0	1		
専門教育科目	専門教育科目	解剖学実習	2		1	後	45	○	◎			◎		○	△	△		◎	専門教育科目	4	I	T	2	2	2	P	0	1		
		生理学Ⅰ	1	2		前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	C	1	1	1	P	0	2		
		生理学Ⅱ	1		2	後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	C	1	2	2	P	0	1		
		生理学実習	2		1	前	45	○	◎			◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	1	P	0	1		
		臨床病態学Ⅰ	3		2	前	30			◎				◎	△	○	◎	○		4	I	C	3	2	1	P	0	1		
		臨床病態学Ⅱ	3		1	後	15			◎				◎	△	○	◎	◎		4	I	T	3	2	2	P	0	1		
		病理学Ⅰ	2	2		前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	C	2	1	1	P	0	1		
		病理学Ⅱ	2		2	後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	2	P	0	2		
		病理学実習	3		1	前	45	○	◎			◎		○	△	△		◎		4	I	T	3	2	1	P	0	1		
		生化学Ⅰ	1	2		後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	C	1	1	2	P	0	2		
専門教育科目	専門教育科目	生化学Ⅱ	2		2	前	30					◎		◎	△	△		◎	専門教育科目	4	I	T	2	2	1	P	0	2		
		生化学実習	1		1	後	45	○	◎			◎		◎	△	△		◎		4	I	T	1	2	2	P	0	1		
		微生物学Ⅰ	1	2		後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	C	1	1	2	P	0	3		
		微生物学Ⅱ	2		2	前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	1	P	0	3		
		微生物学実習Ⅰ	2		1	後	45	○	◎			◎		○	△	△		◎		4	I	T	3	2	2	P	0	3		
		微生物学実習Ⅱ	3		1	前	45	○	◎			◎		○	△	△		◎		4	I	T	3	2	1	P	0	2		
		一般検査学	2		2	前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	1	P	0	4		
		一般検査学実習	2		1	後	30			○	◎			◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	2	P	0	4		
		検査機器総論	1	2		前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	1	1	1	P	0	1		
		医用工学概論	1	2		前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	1	1	1	P	0	2		
専門教育科目	専門教育科目	医用工学実習	1	1		後	45	○	◎			◎		◎	△	△		◎	専門教育科目	4	I	T	1	1	2	P	0	1		
		臨床血液学Ⅰ	2		2	前	30					◎		○	△	△		◎		4	I	T	2	2	1	P	0	5		
		臨床血液学Ⅱ	2		2	後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	2	P	0	5		
		臨床血液学実習Ⅰ	3		1	前	45	○	◎			◎		○	△	△		◎		4	I	T	3	2	1	P	0	3		
		臨床血液学実習Ⅱ	3		1	後	45	○	◎			◎		○	△	△		◎		4	I	T	3	2	2	P	0	2		
		免疫検査学	2		2	前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	1	P	0	6		
		免疫検査学実習	3		1	前	45	○	◎			◎	△		◎	△	◎	○		4	I	T	3	2	1	P	0	4		
		臨床免疫学Ⅰ	2		2	後	30				○			◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	2	P	0	6		
		臨床免疫学Ⅱ	3		1	前	15				◎			◎	△	△		◎		4	I	T	3	2	1	P	0	5		
		臨床免疫学実習	3		1	後	45	○	◎			◎	△		◎	△	◎	○		4	I	T	3	2	2	P	0	3		
専門教育科目	専門教育科目	臨床検査総合管理Ⅰ	3		2	前	30					◎		◎	△	△		◎	専門教育科目	4	I	C	3	2	1	P	0	2		
		臨床検査総合管理Ⅱ	3		2	後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	C	3	2	2	P	0	1		
		臨床検査総論	2		2	後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	2	P	0	7		
		臨床生理学Ⅰ	2		2	前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	1	P	0	7		
		臨床生理学Ⅱ	2		2	後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	2	P	0	9		
		臨床生理学Ⅲ	3		2	前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	3	2	1	P	0	6		
		臨床生理学Ⅳ	3		2	後	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	3	2	2	P	0	4		
		臨床生理学実習Ⅰ	3		1	前	45	○	◎			◎		○	△	△		◎		4	I	T	3	2	1	P	0	7		
		臨床生理学実習Ⅱ	3		1	後	45	○	◎			◎		○	△	△		◎		4	I	T	3	2	2	P	0	5		
		臨床化学Ⅰ	2		2	前	30					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	2	2	1	P	0	8		
専門教育科目	専門教育科目	臨床化学Ⅱ	2		2	後	30							◎				◎	専門教育科目	4	I	T	2	2	2	P	0	1		
		臨床化学実習	3		1	後	45	○	◎			◎		◎	△	△		◎		4	I	T	3	2	2	P	0	6		
		医療安全管理学	3		1	前	15					◎		◎	△	△		◎		4	I	T	3	2	1	P	0	8		
		医療安全管理学実習	3		1	後	30			○	◎			◎	△	△		◎		4	I	T	3	2	2	P	0	7		
		遺伝子検査学	2		2	前	60					△		◎	△	△		◎		4	I	C	2	2	1	P	0	2		
		臨床検査臨床実習Ⅰ	3		3	通	135	○	○	◎		◎	○	◎	○	△	△	○		4	I	T	3	2	3	P	0	1		
		臨床検査臨床実習Ⅱ	3・4		9	通	405	○	○	○	◎		◎	○	◎	○	△	○		4	I	T	3	2	3	P				

専門教育科目	臨床細胞学演習Ⅰ	3		1	前	30		○		◎			△		○	※の2科目のうち、最低1科目は修得すること。	
	臨床細胞学演習Ⅱ	3		1	後	30		○		◎			△		○		
	細胞診断学特論Ⅰ	4		4	前	120		○		◎			△		○		
	細胞診断学特論Ⅱ	4		4	後	120		○		◎			△		○		
	臨床薬理学	3		2	後	30	◎	○	○	◎		○	○		○		
	チーム医療概論	3		2	後	30	◎	○	○	◎	○	◎	○	△			○
	関係法規	4		1	前	15	◎	○	○	◎					○		
	医用電気工学Ⅰ	1	2		前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医用電気工学Ⅱ	1		2	後	30	◎	○	○	◎					○		
	医用電気工学演習	1	1		前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医用電気工学実習	2		1	前	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	医用電子工学Ⅰ	2		2	前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医用電子工学Ⅱ	2		2	後	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医用電子工学演習	2		1	前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医用電子工学実習	2		1	後	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	物性工学	3		2	前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	材料工学	3		2	前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医用機器工学	3		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	応用数学	2		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	医療情報処理工学	1		2	後	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医療情報処理工学実習	1		1	後	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	システム工学	3		2	後	30	◎	○	○	◎					○		
	医用工学	1	2		前	30	◎	○	○	◎					○		
	医用工学演習	1		1	後	30	◎	○	○	◎		○			○		
	生体機能工学	3		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	生体計測装置学Ⅰ	1	2		前	30	◎	○	○	◎					○		
	生体計測装置学Ⅱ	3		2	後	30	◎	○	○	◎		○			○		
	生体計測装置学実習	3		1	後	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	医用治療機器学	2		2	前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	医用治療機器学実習	2		1	後	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	臨床支援技術学	3		2	後	30	◎	○	○	◎		○			○		
	画像診断学	3		2	後	30	◎	○	○	◎		○			○		
	生体機能代行装置学Ⅰ	2		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	生体機能代行装置学Ⅱ	3		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	生体機能代行装置学Ⅲ	3		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	生体機能代行装置学演習Ⅰ	2		1	後	30	◎	○	○	◎					○		
	生体機能代行装置学演習Ⅱ	3		1	後	30	◎	○	○	◎					○		
	生体機能代行装置学演習Ⅲ	3		1	後	30	◎	○	○	◎					○		
	生体機能代行装置学演習Ⅳ	4		1	後	30	◎	○	○	◎					○		
	生体機能代行装置学実習Ⅰ	2		1	後	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	生体機能代行装置学実習Ⅱ	3		1	後	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	生体機能代行装置学実習Ⅲ	3		1	後	45	◎	○	○	◎	○	○	△		○		
	医用機器安全管理学	3		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	医用機器安全管理学実習	3		1	後	45	◎	○	○	◎			△		○		
	患者安全管理学	3		2	後	30	◎	○	○	◎	◎	◎	△		○		
	臨床医学総論Ⅰ	2		2	前	30	◎	○	○	◎		◎	△		○		
	臨床医学総論Ⅱ	2		2	後	30	◎	○	○	◎					○		
	臨床医学総論Ⅲ	3		2	前	30	◎	○	○	◎					○		
	臨床医学総論Ⅳ	3		2	後	30	◎	○	○	◎					○		
	臨床工学臨床実習	3・4		4	通	180	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		
	生命医科学特論Ⅰ	4		2	前	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	生命医科学特論Ⅱ	4		2	前	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	生命医科学特論Ⅲ	4		2	後	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	総合演習	4		1	前	30	◎	○	○	◎		○			○		
	臨床検査学演習Ⅰ	4		2	前	30			○	△	◎		△	△			○
	臨床検査学演習Ⅱ	4		2	後	60			○	△	◎		△	△			○
卒業研究Ⅰ	4		4	通	120	◎	◎	△	◎	○	○	△	△		○		
卒業研究Ⅱ	4		4	通	120	◎	◎	△	◎	○	○	△	△	◎	○		

※の2科目のうち、最低1科目は修得すること。

【卒業要件】

大学共通基礎科目の中から10単位以上、学科基礎科目の中から14単位以上、合計24単位以上修得すること。

専門基礎科目の専門科目の中から100単位以上修得すること。

基礎科目、専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。

臨床心理学部 臨床心理学科

【ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

- ①専門職としての基本的態度：専門職として、思考力、洞察力、判断力、豊かな人間性と倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
- ②コミュニケーション能力：課題を抱えた人々や、地域、協働する各機関や多職種等とコミュニケーションを図り、適切な支援や連携を取ることができる。
- ③実践力：支援が必要な対象者や地域社会に対し、専門的な知識や技術を駆使し、情報収集や検査等により、保健・医療・福祉・教育・司法・産業各領域の問題を分析・的確に把握し、解決法や支援プログラムを導き出していくことができる。
- ④社会貢献力：保健・医療・福祉・教育等に参画・連携し、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。
- ⑤自己研鑽力：保健・医療・福祉・教育・司法・産業領域の進歩と改善に対応するため、研究等を通じ、社会や各領域の現場の動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。
- ⑥問題発見・解決力：常に問題意識を持ち、問題意識を解決するための視点を、研究を通じて持つことができる。

分野別	科 目	開講年	単 位 数			開講期	時間数	【ディプロマポリシー実現のために】 ◎特に重要、○重要、△望ましい						備 考	ナンバリング													
			必修	選択	自由			①	②	③	④	⑤	⑥		学部	学科	コース	職業実	単位区分	開講期	科目区分	履修1	履修2	備考				
大学共通基礎科目	共通	英語	1	2		前	30						○	各分野から最低1科目以上修得 大学共通基礎科目の中から10単位以上修得	9	C	C	1	2	1	B	0	1					
		英語コミュニケーション	1	2		後	30						○		9	C	C	1	2	2	B	0	1					
		情報処理入門	1	2		前	30								9	C	C	1	1	1	B	0	1					
		データサイエンスⅠ	1	1		後	30					○			9	C	C	1	2	2	B	0	2					
	情報教	データサイエンスⅡ	1	1		後	30					○			9	C	C	1	2	2	B	0	3					
		キャリア教育	2	2		前	30	△							9	C	C	2	2	1	B	0	1					
		コミュニケーション論	1	2		後	30			△					9	C	C	1	2	2	B	0	4					
		QOLと人間の尊厳	1	2		前	30	△		△					9	C	C	1	1	1	B	0	2					
	総合教育	日向国地域論	1	2		後	30	△							9	C	C	1	2	2	B	0	5					
		日向国地域体験学習	1	1		通	30	△							9	C	C	1	2	3	B	0	1					
		医療・福祉連携講座	1	1		通	30					○			9	C	C	1	2	3	B	0	2					
		ボランティア活動	1	1		通	30					○			9	C	C	1	2	3	B	0	3					
		インターンシップ	1	1		通	30					○			9	C	C	1	2	3	B	0	4					
		中国語Ⅰ	1	2		前	30						△		5	C	C	1	2	1	B	0	1					
学部共通基礎科目	人間と社会・文化	中国語Ⅱ	1	2		後	30						△	学部共通基礎科目の中から14単位以上修得	5	C	C	1	2	2	B	0	1					
		日本語Ⅰ	1	2		前	30				△				5	C	C	1	2	1	B	0	2					
		日本語Ⅱ	1	2		後	30				△				5	C	C	1	2	2	B	0	2					
		日本語Ⅲ	2	2		前	30				△				5	C	C	2	2	1	B	0	1					
		日本語Ⅳ	2	2		後	30				△				5	C	C	2	2	2	B	0	1					
		日本語総合講座Ⅰa	1	2		前	30				△				5	C	C	1	2	1	B	0	3					
		日本語総合講座Ⅰb	1	2		後	30				△				5	C	C	1	2	2	B	0	3					
		日本語総合講座Ⅱa	1	2		前	30				△				5	C	C	1	2	1	B	0	4					
		日本語総合講座Ⅱb	1	2		後	30				△				5	C	C	1	2	2	B	0	4					
		哲学	1	2		後	30						◎		5	C	C	1	2	2	B	0	5					
		倫理学	2	2		後	30						○		5	C	C	2	2	2	B	0	2					
		社会学	1	2		前	30				○				5	C	C	1	2	1	B	0	5					
	健康	日本国憲法	2	2		前	30						△		5	C	C	2	2	1	B	0	2					
		経済学	2	2		前	30				△				5	C	C	2	2	1	B	0	3					
		生物学	1	2		後	30				△				5	C	C	1	2	2	B	0	6					
		健康科学論	1	2		後	30						△		5	C	C	1	2	2	B	0	7					
		生涯スポーツ論	1	2		前	30						△		5	C	C	1	2	1	B	0	6					
		生涯スポーツ実習Ⅰ	1	1		前	30						△		5	C	C	1	2	1	B	0	7					
	演習	生涯スポーツ実習Ⅱ	1	1		後	30						△		5	C	C	1	2	2	B	0	8					
		基礎演習Ⅰ	1	1		前	30					○			5	C	C	1	1	1	B	0	1					
		基礎演習Ⅱ	1	1		後	30					○			5	C	C	1	1	2	B	0	1					
	専門基礎科目	社会福祉学	社会福祉学	1	2		後	30	○							各分野から最低1科目以上修得	5	1	C	1	2	2	P		0	1		
			心理学概論	1	2		前	30				○					5	1	C	1	1	1	P		0	1		
			臨床心理学概論	1	2		後	30					○				5	1	C	1	1	2	P		0	1		
			心理学研究法	1	2		後	30					○				○	5	1	C	1	2	2		P	0		2
			心理学統計法	1	2		前	30				○					○	5	1	C	1	2	1		P	0		1
			臨床医学	2	2		前	30				○					5	1	C	2	2	1	P		0	1		
			解剖学	1	2		後	30				○					5	1	C	1	2	2	P		0	3		
			生理・病理学	2	2		後	30				○					5	1	C	2	2	2	P		0	1		
			人体の構造と機能及び疾病	1	2		後	30				○					5	1	C	1	2	2	P		0	4		
			発達心理学	1	2		前	30				○					5	1	C	1	2	1	P		0	2		
			知覚・認知心理学	2	2		前	30				○					5	1	C	2	2	1	P		0	2		
学習・言語心理学			2	2		前	30				○			5	1		C	2	2	1	P	0	3					
公認心理師系科目		心理測定法演習	3	1		前	30						○	5	1		C	3	2	1	P	0	1					
		精神疾患とその治療	2	2		前	30				○			5	1		C	2	2	1	P	0	4					
		医療統計学演習	2	2		前	30						○	5	1		C	2	2	1	P	0	5					
		公認心理師の職責	4	2		前	30	○			○			5	1		P	4	2	1	P	0	1					
		感情・人格心理学	3	2		後	30				○			5	1		P	3	2	2	P	0	1					
		神経・生理心理学	2	2		後	30				○			5	1		P	2	2	2	P	0	1					
		社会・集団・家族心理学	1	2		後	30				○			5	1		P	1	1	2	P	0	1					
		障害者・障害児心理学	2	2		後	30				○			5	1		P	2	2	2	P	0	2					
		心理的アセスメント	2	2		後	30				○		○	5	1		P	2	2	2	P	0	3					
		心理学的支援法	3	2		前	30						○	5	1		P	3	2	1	P	0	1					
		健康・医療心理学	3	2		前	30				○			5	1		P	3	2	1	P	0	2					
		福祉心理学	3	2		後	30				○			5	1		P	3	2	2	P	0	2					
教育・学校心理学	3	2		前	30				○			5	1	P	3	2	1	P	0	3								
司法・犯罪心理学	3	2		後	30				○			5	1	P	3	2	2	P	0	3								
産業・組織心理学	3	2		後	30				○			5	1	P	3	2	2	P	0	4								
心理学実験	2	2		通	60				○		○	5	1	P	2	2	3	P	0	1								
心理演習Ⅰ	3	1		前	30	○	○	○	○	○	○	○	5	1	P	3	2	1	P	0	4							
心理演習Ⅱ	3	1		後	30	○	○	○	○	○	○	○	5	1	P	3	2	2	P	0	5							
心理実習	4	2		通	90	○	○	○	◎	○	○	○	5	1	P	4	2	3	P	0	1							
関係行政論	4	2		前	30								5	1	P	4	2	1	P	0	2							
社会福祉系科目	児童・家庭福祉	1	2		前	30				○			5	1	C	1	2	1	P	0	3							
	障害者福祉	1	2		後	30				○			5	1	C	1	2	2	P	0	5							
	高齢者福祉	1	2		後	30				○			5	1	C	1	2	2	P	0	6							
	介護概論	2	2		前	30				○			5	1	C	2	2	1	P	0	6							
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	2		前	30				○			5	1	C	1	2	1	P	0	4							
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	2		後	30				○			5	1	C	1	2	2	P	0	7							
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1	2		前	30				○			5	1	C	1	1	1	P	0	2							
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1	2		後	30							5	1	C	1	2	2	P	0	8							
	貧困に対する支援	2	2		前	30				○			5	1	C	2	2	1	P	0	7							
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	2		前	30				○			5	1	C	2	2	1	P	0	8							
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	2		後	30				○			5	1	C	2	2	2	P	0	2							
	社会保障Ⅰ	2	2		前	30				○			5	1	C	2	2	1	P	0	9							
	社会保障Ⅱ	2	2		後	30				○			5	1	C	2	2	2	P	0	3							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2		前	30			△		○		5	1	C	2	2	1	P	1	0							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2		後	30			△		○		5	1	C	2	2	2	P	0	4							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3	2		前	30			△		○		5	1	C	3	2	1	P	0	2							
ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3	2		後	30			△		○		5	1	C	3	2	2	P	0	1								
権利擁護を支える法制度	2	2		後	30			△		○		5	1	C	2	2	2	P	0	5								
社会福祉調査の基礎	3	2		前	30			△			○	5	1	C	3	2	1	P	0	3								
保健医療と福祉	3	2		前	30			○		○		5	1	C	3	2	1	P	0	4								
福祉サービスの組織と経営	3	2		後	30			○		○		5	1	C	3	2	2	P	0	2								
刑事司法と福祉	3	2		後	30				○			5	1	C	3	2	2	P	0	3								

社会福祉系科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2		1		前	30		○	○			○	言語聴覚コースの学生は「言語聴覚療法専門科目」はすべて必修 言語聴覚コースの学生のみ履修可能	5	1	C	2	2	1	P	1	1
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		1		後	30		○	○			○		5	1	C	2	2	2	P	0	6
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3		1		前	30		○	○			○		5	1	C	3	2	1	P	0	5
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3		1		後	30		○	○			○		5	1	C	3	2	2	P	0	4
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	4		1		前	30		○	○			○		5	1	C	4	2	1	P	0	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2		1		後	30		○	○			○		5	1	C	2	2	2	P	0	7
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3		1		前	30		○	○			○		5	1	C	3	2	1	P	0	6
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3		1		後	30		○	○			○		5	1	C	3	2	2	P	0	5
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2		2		後	60		○	○			○		5	1	C	2	2	2	P	0	8
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3		4		前	180		○	○			○		5	1	C	3	2	1	P	0	7
言語聴覚療法専門科目	リハビリテーション医学	3		2		前	30		○		○			5	1	S	3	2	1	P	0	1	
	耳鼻咽喉科学	2		2		後	30		○		○			5	1	S	2	2	2	P	0	1	
	臨床歯科医学・口腔外科学	3		2		前	30		○		○			5	1	S	3	2	1	P	0	2	
	聴覚・発声発語系の構造、機能、病態	2		2		前	30		○		○			5	1	S	2	2	1	P	0	1	
	神経系の構造、機能、病態	2		2		前	30		○		○			5	1	S	2	2	1	P	0	2	
	言語学	1		2		後	30		○		○			5	1	S	1	2	2	P	0	1	
	音声学	2		2		前	30		○		○			5	1	S	2	2	1	P	0	3	
	音響学・聴覚心理学	3		2		前	30		○		○			5	1	S	3	2	1	P	0	3	
	言語発達学	1	2			後	30		○		○			5	1	S	1	1	2	P	0	1	
	リハビリテーション概論	1		1		後	15		○		○			5	1	S	1	2	2	P	0	2	
	公衆衛生学	4		2		前	30		○		○			5	1	S	4	2	1	P	0	1	
	言語聴覚障害総論	1		2		後	30		◎		○			5	1	S	1	2	2	P	0	3	
	言語聴覚障害診断学	2		2		前	30		◎		○			5	1	S	2	2	1	P	0	4	
	失語症Ⅰ	2		2		前	30		○		○		○	5	1	S	2	2	1	P	0	5	
	失語症Ⅱ	2		2		後	30		○		○		○	5	1	S	2	2	2	P	0	2	
	高次脳機能障害学	3		2		前	30		○		○		○	5	1	S	3	2	1	P	0	4	
	言語発達障害学Ⅰ	2		2		前	30		○		○		○	5	1	S	2	2	1	P	0	6	
	言語発達障害学Ⅱ	2		2		後	30		○		○		○	5	1	S	2	2	2	P	0	3	
	言語発達障害学演習Ⅰ	3		1		前	30		○		○		○	5	1	S	3	2	1	P	0	5	
	言語発達障害学演習Ⅱ	3		1		後	30		○		○		○	5	1	S	3	2	2	P	0	1	
	発声言語障害学	2		2		前	30		○		○		○	5	1	S	2	2	1	P	0	7	
	発声言語障害学演習Ⅰ	2		1		後	30		○		○		○	5	1	S	2	2	2	P	0	4	
	発声言語障害学演習Ⅱ	3		1		前	30		○		○		○	5	1	S	3	2	1	P	0	6	
	嚥下障害学Ⅰ	2		2		後	30		○		○		○	5	1	S	2	2	2	P	0	5	
	嚥下障害学Ⅱ	3		2		前	30		○		○		○	5	1	S	3	2	1	P	0	7	
嚥下障害学演習	3		1		後	30		○		○		○	5	1	S	3	2	2	P	0	2		
聴覚障害学Ⅰ	2		2		前	30		○		○		○	5	1	S	2	2	1	P	0	8		
聴覚障害学Ⅱ	2		2		後	30		○		○		○	5	1	S	2	2	2	P	0	6		
聴覚検査演習	3		1		後	30		○		○		○	5	1	S	3	2	2	P	0	3		
補聴器・人工内耳	3		2		後	30		○		○		○	5	1	S	3	2	2	P	0	4		
言語聴覚障害演習Ⅰ	2		1		後	30		◎		○		○	5	1	S	2	2	2	P	0	7		
言語聴覚障害演習Ⅱ	3		1		前	30		◎				○	5	1	S	3	2	1	P	0	8		
言語聴覚障害演習Ⅲ	3		1		後	30		○		◎		○	5	1	S	3	2	2	P	0	5		
学外評価臨床実習	3		4		後	180		○		◎			5	1	S	3	2	2	P	0	6		
学外総合臨床実習	4		8		前	360		○		◎			5	1	S	4	2	1	P	0	2		
専門分野関連科目	動物人間関係学	1	2			前	30		○		○			言語聴覚コースの学生は「言語聴覚療法専門科目」はすべて必修 言語聴覚コースの学生のみ履修可能	5	1	C	1	1	1	P	0	3
	動物生態学	1		2		後	30				○				5	1	C	1	2	2	P	0	9
	動物介在教育学	2		2		後	30				○		○		5	1	C	2	2	2	P	0	9
	アニマルセラピー概論	2		2		前	30				○		○		5	1	C	2	2	1	P	1	2
	アニマルセラピー演習Ⅰ	3		1		前	30				○		○		5	1	C	3	2	1	P	0	8
	アニマルセラピー演習Ⅱ	3		1		後	30				○		○		5	1	C	3	2	2	P	0	6
	動物適正飼養・トレーニング学	2		2		前	30				○		○		5	1	C	2	2	1	P	1	3
	動物トレーニング実習	2		1		後	30			○					5	1	C	2	2	2	P	1	0
	教育心理学	3		2		前	30				○				5	1	C	3	2	1	P	0	9
	教育相談	3		2		後	30				○				5	1	C	3	2	2	P	0	7
	心理尺度構成実習	4		1		前	30						○		5	1	C	4	2	1	P	0	2
	キャリアカウンセリング	4		2		前	30						○		5	1	C	4	2	1	P	0	3
	レクリエーション論	2		2		前	30				○		○		5	1	C	2	2	1	P	1	4
	レクリエーション実技	2		1		後	30				○		○		5	1	C	2	2	2	P	1	1
	福祉住環境論	4		2		前	30					△			5	1	C	4	2	1	P	0	4
	スクールソーシャルワーク論	3		2		前	30					○			5	1	C	3	2	1	P	1	0
	スクールソーシャルワーク演習	3		1		後	30		○		○		○		5	1	C	3	2	2	P	0	8
	医療ソーシャルワーク論	3		2		後	30								5	1	C	3	2	2	P	0	9
	医療ソーシャルワーク実習指導	4		1		前	30		○		○		○		5	1	C	4	2	1	P	0	5
	医療ソーシャルワーク実習	4		1		前	30		○		○		○		5	1	C	4	2	1	P	0	6
	時事福祉学Ⅰ	4		2		前	30				○		○		5	1	C	4	2	1	P	0	7
	時事福祉学Ⅱ	4		2		後	30				○		○		5	1	C	4	2	2	P	0	1
	連携実践演習	4		1		前	30				○		○		5	1	C	4	2	1	P	0	8
	認知症の理解Ⅰ	3		2		前	30								5	1	C	3	2	1	P	1	1
	認知症の理解Ⅱ	3		2		前	30				○				5	1	C	3	2	1	P	1	2
総合科目	基礎ゼミⅠ	2	2			前	30						○	5	1	C	2	1	1	P	0	1	
	基礎ゼミⅡ	2	2			後	30							5	1	C	2	1	2	P	0	1	
	専門ゼミⅠ	3	2			前	30						○	5	1	C	3	1	1	P	0	1	
	専門ゼミⅡ	3	2			後	30						○	5	1	C	3	1	2	P	0	1	
	専門ゼミⅢ	4	2			前	30						○	5	1	C	4	1	1	P	0	1	
	専門ゼミⅣ	4	2			後	30						○	5	1	C	4	1	2	P	0	1	

【卒業要件】

卒業要件として、基礎科目の中から24単位以上修得すること。
 （基礎科目の日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本語総合講座Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱbは外国人留学生対象科目）
 卒業要件として、専門教育科目の中から100単位以上修得すること。
 基礎科目、専門教育科目を合わせて124単位以上修得すること。
 その他、備考に記載の要件を満たすこと。